

学校法人 二本松学院
〒622-0041 京都府南丹市園部町二本松1-17
TEL:0771-63-1010 FAX:0771-63-1020

京都美術工芸大学
〒605-0991 京都府京都市東山区川端通七条上ル
TEL:075-525-1515 FAX:075-533-6033

京都建築大学校
〒622-0041 京都府南丹市園部町二本松1-17
TEL:0771-63-1010 FAX:0771-63-1020

京都伝統工芸大学校
〒622-0041 京都府南丹市園部町二本松1-1
TEL:0771-63-1751 FAX:0771-63-1761

京都伝統工芸館
〒604-8172 京都市中京区烏丸通三条上ル
TEL:075-229-1010 FAX:075-253-1020

大阪都島工芸美術館
〒534-0061 大阪府大阪市都島区友洲町1丁目5番102号 ヘルパークシティ内
TEL:06-7860-1020 FAX:06-7860-1021

30
周年記念

30周年記念

NIHONMATSU GAKUIN

学校法人 二本松学院

発行日 2021年9月28日
発行 学校法人 二本松学院

学校法人 二本松学院
2021年(令和3年)

“新しい大学教育のカタチ”を目指して

1991年に産声を上げました二本松学院は

今年で30周年を迎えることになりました。

卒業生は3校合わせて16,300人を超え、

在学生の総数は3,300人を超える規模にまでになり、

園部キャンパス、京都東山キャンパスと学内施設も

徐々にではありますが整備・拡張をしてまいりました。

皆様のご支援とご協力の賜物と深く感謝するとともに、

新たなる30周年に向けて、学院一同頑張ってまいる所存です。

引き続き、ご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

京都美術工芸大学

KYOTO ARTS AND CRAFTS UNIVERSITY

京都建築大学校

KYOTO ARCHITECTURAL SUPER COLLEGE OF DESIGN

京都伝統工芸大学校

TRADITIONAL ARTS SUPER COLLEGE OF KYOTO

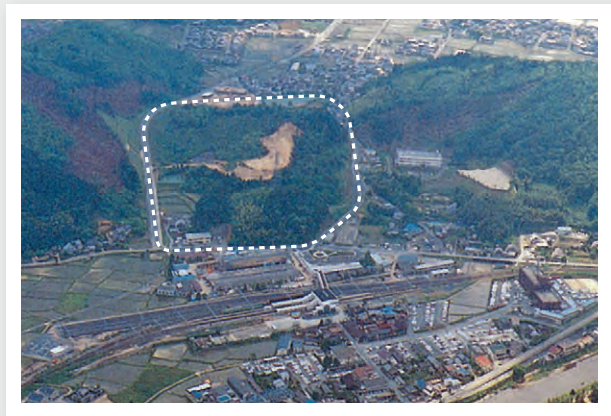
CONTENTS

園部キャンパス	02
東山キャンパス	04
挨拶	06
祝辞	11
30年のあゆみ	17
学生入学数推移	24
学生卒業数推移	25
資格取得者数	26
歴代校長紹介	27
京都建築大学校 (KASD)	28
京都伝統工芸大学校 (TASK)	36
京都美術工芸大学 (KYOBI)	44
関連施設紹介	52
学生寮・通学サポート	54
30周年記念事業	56
旭日中綬章 受章	59



30周年を記念しての建築・工芸の学生のそれぞれの作品を集めました。

SONOBE CAMPUS [園部キャンパス]



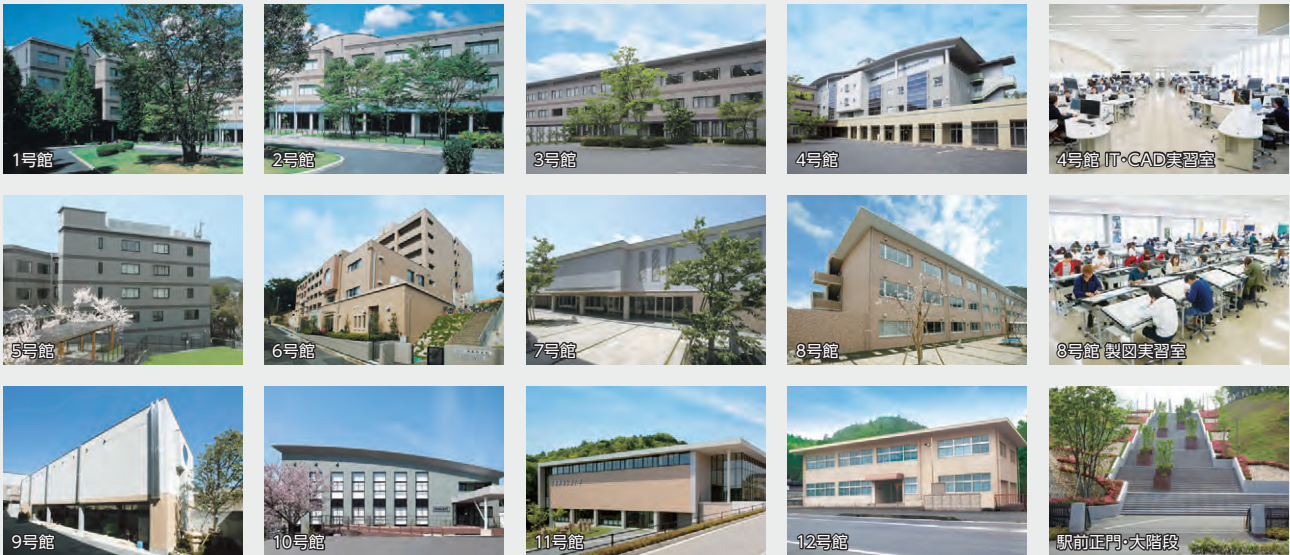
開校前の京都府園部町(現南丹市)の航空写真

現メインキャンパス



2004年当時の園部キャンパス

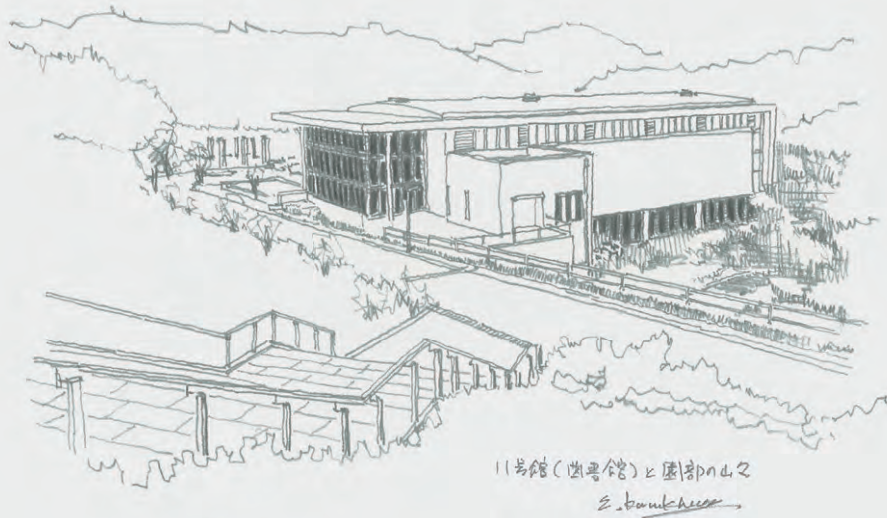
〈二本松学院 キャンパス紹介〉



総合大学にも劣らないビッグスケールのキャンパスに、
建築・インテリア・工芸を学ぶ設備が充実。

便利な駅前にある甲子園球場の約24倍もの広大なキャンパス(総面積約32万m²)。
建築・インテリア・工芸に関する専門的な設備が整っているのはもちろん、
学生生活を存分に楽しめる素晴らしい環境です。
また学生寮もあり、交換留学生の受け入れ施設としての役割も担っています。

- 「京都」駅よりJR嵯峨野線で36分
- 学生用駐車場300台分
- JR嵯峨野線「園部」駅、直結 徒歩1分
- 本学院所有の学生寮13棟 600室
- 総面積32万m²(甲子園球場の約24倍)



HIGASHIYAMA CAMPUS [東山キャンパス]



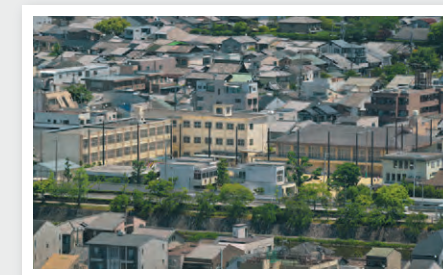
伝統と革新が息づく

京都の中心にあるキャンパスで充実した4年間を。

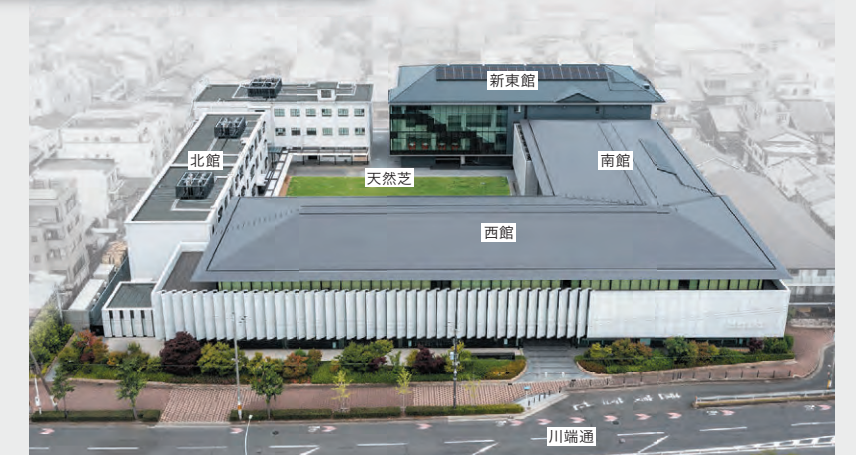
2017年4月に鴨川沿いに誕生した新キャンパス。

アクティブな創作活動スペースが充実しているだけでなく、

京都のさまざまな企業・団体との連携活動がしやすいロケーションにより、
新たなクリエイティブの可能性をとことん追求していくことができます。



京都東山キャンパスの歴史
明治2年、日本初の小学校・64校が京都に誕生しました。京都東山キャンパスは、その一つ「貞教小学校」の一部を残し、新しい教室、図書室、カフェテリアなどを増築しています。



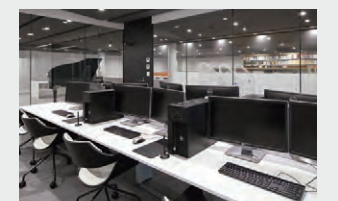
KYOBIホール
卒業式などの式典、各種ガイダンスや特別講義などに利用する285人収容可能な大ホール。



鴨川七条ギャラリー
川端通に面したガラス張りのギャラリースペースには、卒業生の優秀作品などがズラリ。卒業制作展や各種展示会なども開催しています。



図書室
建築・デザインの専門書を豊富に揃えており、自習スペースも設けています。



デジタルラボ
ハイスペックなデジタル機器を設置しており、3D・CGやアニメーション制作などが行えます。



デザインラボ (W303)
建築学科生が実習・演習で使用する180名収容可能な大教室。西側の窓からは、鴨川の流れや京都の街並みを一望できます。



陶芸実習室
電動ろくろ台が数多く並ぶ陶芸専用の実習室。集中して作業ができる設備が整っています。



木彫刻実習室
立体を自在に彫り出す技術をつけるため、実習に必要な各種の道具を揃えています。



アクティブ・ラーニングゾーン
少人数でのグループワークなど、多用途で使える共創の場。大型モニターやA2サイズまで出力可能な複合機も設置しています。

MESSAGE [挨拶]

ご挨拶

Greetings

学校法人 二本松学院 理事長

新谷 秀一



学校法人二本松学院は、創立30周年を迎えました。これも、皆さま方のご協力とご支援があつてのことと、心より感謝申し上げます次第です。

昨年のコロナ禍により世界は大きく変化し、新しい社会の仕組みや在り方を模索する時代に入りました。その渦中にあって節目の30年を迎えたことも、私達への大きな使命ではないかと思っております。

一昨年まだコロナ禍の前に、ITがこれからの時代には必ず必要との考えから、保護者の皆さまにお願いして、学生一人一人にパソコンを購入して頂きました。おかげさまでオンライン授業はどこよりも早くスムーズに移行でき、学びを継続することができたと思っております。特に二級建築士対策講座ではオンライン授業で合格者が昨年度を上回ることができ、今回得たノウハウを活かし、より現代的な教育方法に今後も取り組んでいきます。

学生に寄り添って今何が必要か。この30年常にそれを考えてきました。

開校前の平成2(1990)年、園部の駅から、キャンパスとなる広大な敷地を眺めたとき、二つのことを決めました。在学中に仕事の糧となる資格を取得できるようにすること、そして全国から学生を募集すること。この二つです。わが学院の一番最初の京都国際建築技術専門学校(現・京都建築大

学校)はこうした想いから誕生いたしました。

ブレハブ業界に身を置いていた私は、建築士の人材育成を痛切に感じていました。そこで産業界から求められる二級建築士の資格を在学中に取得できる、全国に類をみないカリキュラムを確立し、在学中に二級建築士の資格取得ができる学校を創ろう、そして全国から集まって来る学生のために、学生寮を作り、学びと生活の場を提供しようと考えたのです。

経済産業省の伝産法に基づく、伝統工芸の技を次世代への継承を目指す京都伝統工芸専門学校(現・京都伝統工芸大学校)は、国、京都府、南丹市、そして京都の伝統工芸業界の皆さまのお力添えを頂き実現いたしました。学校教育での技術継承は前例がなく、体系的なカリキュラムで学ぶことを全国で初めて可能にした唯一の学校です。業界の熟練した匠から学ぶ学生たちの真摯な眼差しは、高度な技術の習得と次々と新しいプロジェクトを生み出して行きます。そうした学生諸君の、地域に根差し取り組みが、京都の方々に大いなる共感をよび、その結実が、京都の中心である東山に京都美術工芸大学東山キャンパスの実現となりました。

美術工芸と建築との一体化した学びの場は、京都にこそ相応しくまた全国に先駆けた試みです。

いま社会が必要とするもの、いま学生が必要とするもの、常にそれを考え、その実現に走り続けた30年でした。あらためてご協力いただきました皆様に深い感謝を申し上げるとともに、これからどうぞ二本松学院にご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

The Nihonmatsu-Gakuin Educational Institution, Incorporated is celebrating the 30th anniversary. I would like to express my sincere gratitude for the cooperation and support of all of you who made this possible.

The world has dynamically changed since last year due to the COVID-19, and now it is time to explore new social structures and the way our society should be. We have reached the milestone of 30 years in the midst of this difficult situation. I think this is a mission for us to rise to this occasion.

Two years ago, before the COVID-19, we asked parents (guardians) of the students to purchase PCs for their children, because we believed that IT would definitely be essential. Thanks to this preparation, we could shift lectures and classes online quickly and smoothly before other colleges, and our students could continue studying without problems. The preparation program for the qualification exams of Certified Architect (class 2) was also given online, and the number of students who successfully passed the exams even exceeded that of last year. We will utilize the know-hows of this success and will continue to work on more advanced methods for education. What do they need now? – Staying close to our students, I have always been thinking about it for these 30 years.

In 1990, before the school was opened, I saw a large site for our future campus from the JR Sonobe station and determined two things. First, I will let the students obtain some qualifications while they are in college, which will surely support their work and life after graduation. And I will call students from all over Japan. Our first college of the group, Kyoto International Architectural College (today's Kyoto Architectural Super College of Design) was established from these ideas.

Having worked in the modular housing industry, I keenly realized the importance of fostering architects. This is why I decided to establish a college with unprecedented program that enables students to acquire the qualification of Certified Architect (class 2) while in college. Qualified personnel were needed in the industry. I also decided to build dormitories for students from all over the country to provide them a place for living as well as learning. Traditional Arts Super College of Kyoto, another college of our group, was established, thanks to the support of the national government, Kyoto prefecture and Nantan city administrations, as well as related people of traditional arts and crafts industries. The mission of this college is to hand down the skills and techniques of traditional arts and crafts to the next generation, based on the Act on the Promotion of Traditional Craft Industries by the Ministry of Economy, Trade and Industry. This has been the only college in Japan that made it possible to learn traditional arts and crafts techniques with a systematic curriculum. It was unprecedented to teach traditional techniques through a systematic school education curriculum. Students have been learning seriously and acquiring elaborate techniques from skilled artists, and they have produced innovative projects one after another. The community-based activities by the students have been greatly sympathized with people in Kyoto, and that led to the opening of the Higashiyama campus of Kyoto Arts and Crafts University in the central area of Kyoto city. Kyoto is the most suitable place for integrated learning of arts, crafts, and architecture. And this is the first attempt in the whole country. What society needs now and what students need now – for 30 years I always thought about it and continued to work toward its realization. I sincerely express my deep gratitude to everyone who cooperated with us, and I appreciate your continuing support and instruction for the Nihonmatsu Gakuin Educational Institution, Incorporated.

Hidekazu Shintani

General Administrative Director

Nihonmatsu-Gakuin Educational Institution, Incorporated

感謝をこめて

My Gratitude

二本松学院が30周年を迎えることが出来たのも、学院を支えて下さった皆様方のお陰と心より感謝申し上げます。

国や京都府、京都市、南丹市を始め各行政機関の皆さま方、建築関連諸団体の皆さま方、伝統工芸諸団体の皆さま方や、学院の優秀な教授陣をはじめ熱意溢れる教職員の皆さま、ほんとうに有難うございます。とりわけ16,352人の学院の卒業生に、深い敬意を表します。素晴らしい有為な人材がこの学院から羽ばたき、各界で活躍してくれております。

平成3年130名の学生が全国から園部の二本松という地に集まりました。目的意識の高い勉学意欲に燃えた学生ばかりです。その志に応えるためにも、学びに集中できる施設・設備を整え、学生生活を楽しく安心して過ごせる環境や奨学金制度も整えました。

5年後には、京都伝統工芸専門学校が開校します。建築と伝統工芸、一見繋がりがありませんが、ともに共通するのが「ものづくり」です。しかもどちらもこれからの時代に、優秀な人材が求められています。京都伝統工芸専門学校では、カリキュラムに沿って京都の伝統工芸の各界の名匠から直接指導を受けるという全国にもない初めての授業が始まりました。

「ものづくり」の喜びを実感し、その基礎基本を学んだ学生たちは、フランスやイタリアをはじめ世界の芸術に触れたり、様々な産官学プロジェクトに積極的に参加し、時には自分たちから新しいイベントを創造するようになりました。「京都創造者大賞」受賞もその成果の一つであります。

京都市との連携のなかで誕生したのが、京都美術工芸大学東山キャンパスです。KYOBIはまず南丹市園部キャンパスで平成24年に開学しました。「京都建築大校」、「京都伝統工芸大校」に校名変更した共に大学卒業資格を取得出来る二つの専門学校との有機的な連携は、学びの広がりとして深化を実現し、新しい大学教育のカタチを形成できました。

三つの学校は全国どこにもない素晴らしい学校です。在学中に様々な資格取得が出来る様工夫をこらしたカリキュラム、園部の緑豊かな広大な敷地の中での学び、そして千年の美術工芸の地京都での学び。それを支える優れた教授陣、そして何より真摯な学生の学びの姿勢は、各界からも大いに支持をいただき、それが学生の就職率の高さとして反映しております。

コロナ後の新しい社会の仕組みにも、柔軟に取り組める意欲と実力のある若い人たちのますますの活躍に、これからも皆さまの暖かいご支援とご指導を心よりお願い申し上げまして、感謝の言葉といたします。

MESSAGE [挨拶]



学校法人 二本松学院 副院長

新谷 秀子

Nihonmatsu-Gakuin is celebrating its 30th anniversary, and I would like to express my sincere gratitude to everyone who have supported our institution. I am very grateful to the national government, Kyoto prefecture, Kyoto city, and Nantan city administrations, as well as those in the architectural organizations, traditional arts and crafts industries, the excellent professors and enthusiastic faculty and all our staff. Thank you very much everyone. I also pay my most special and greatest respect to our 16,352 graduates. Flying from our campus, excellent and competent graduates have been working actively in various fields.

In 1991, 130 students from all over Japan came to Nihonmatsu in Sonobe. They were all highly motivated with great purposes. In order to respond to their aspirations, we prepared facilities and equipment which allowed them to concentrate on their studies, as well as an environment and scholarship system that allowed them to spend their student life in a happy and secure environment.

Five years later, Traditional Arts Super College of Kyoto was opened. Architecture and traditional arts and crafts do not seem to be connected, but what they both have in common is "craftsmanship". And in both fields, excellent human resources are required for the coming ages. This college started unprecedented curriculum in which students could learn directly from master artists representing the fields of traditional arts and crafts in Kyoto. Students realized the joy of "craftsmanship" and learned the basics. They had opportunities to come in contact with the arts and crafts of other countries in the world including France and Italy. They actively began to participate in various industry-government-academia collaboration projects, and sometimes students produced new events by themselves. Winning "Kyoto Creative Award" was one of their achievements.

Higashiyama campus of Kyoto Arts and Crafts University was opened thanks to the support of Kyoto city administration. This university was originally established in Sonobe in Nantan city in 2012. Other two colleges of our group were respectively renamed to Kyoto Architectural Super College of Design and Traditional Arts Super College of Kyoto, and both colleges qualify for college graduation. The alliance of these two colleges and Kyoto Arts and Crafts University in our group has expanded and deepened the learning of students and realized a new form of higher education.

Our three colleges are all special and unique, which are not found anywhere else in Japan. The curriculum which enables students to acquire various qualifications while they are in college, learning on the large Sonobe campus with abundant greenery, and studying in Kyoto, the city of millennial arts and crafts, excellent faculty supporting students, and before anything else, sincere learning attitude of students – these features have received great appreciation from various fields, which is reflected in the high employment rate of our students.

Our students are motivated and capable, and they are flexible enough to cope with the new social structure of the post COVID-19. I would like to express my sincere gratitude to all of you for your continued support and guidance for those young people. Thank you very much.

Hideko Shintani

Vice-Director

Nihonmatsu-Gakuin Educational Institution, Incorporated

京都美術工芸大学10周年に向けて

Toward the 10th Anniversary of Kyoto Arts and Crafts University

京都美術工芸大学 学長

新谷 裕久



学校法人二本松学院創立30周年、おめでとうございます。

京都美術工芸大学は、今年10周年を迎えました。本学は、2012年4月に京都府南丹市園部で全国唯一の工芸学部・伝統工芸学科として入学定員100名で開学しました。

初期の美術工芸分野は、4つの工芸領域(陶芸・彫刻・木工・漆芸)と文化財領域からなり、同敷地内にあった京都伝統工芸大学の11専攻(陶芸・木彫刻・仏像・木工・漆芸・蒔絵・金属・石彫・竹芸・和紙・友禅)とコラボすることによる、幅広い素材を活用した作品づくりが特徴でした。2016年、伝統工芸学科から美術工芸学科に改名され、その後デザイン領域が強化されるようになりました。

初期の建築分野は、伝統工芸学科の伝統建築コースとしてスタートしており、工芸色の強い教育プログラムでした。建築を学ぶ学生も1～2年次に工芸(木工・彫刻・漆等)を必ず選択し、技術を習得したうえで伝統建築を学ぶとしたスタイルでした。2016年、建築分野は建築学科が設置され、建築デザイン領域と伝統建築領域に発展し、伝統だけでなく最新のデザインも取り入れる学びとなりました。また京都建築大学校とのWスクールによる「在学中の二級建築士取得」など「実学主義」を基軸とした「即戦力」の人財育成を具現化しました。

2017年、京都市の誘致により東山キャンパスを開設。京都の中心部という絶好の立地を生かし、京都の街すべてがキャンパスになりました。こうしたことを背景に本学への志願者が急増したことから、2018年に入学定員増(250名)を行いました。また2019年に認証評価(公益財団法人日本高等教育評価機構)の大学評価基準適合の認定を受けました。

2020年に大学院(工芸学研究科建築学専攻)を開設し、「個性豊かな研究の実践」と「一級建築士の最短合格」を同時にめざしております。さらに2021年に「東山キャンパス新東館」が完成し、2022年にむけて「建築学部」を設置申請し、認可を受けました。

こうした10年間の歩みの中で、常に先頭に立ちご指導いただいた歴代の学長に感謝するとともに、大学の運営・教育に関わりのあった教職員ならびに地域・行政の方々に改めてお礼申し上げます。

Hirohisa Shintani
President, Kyoto Arts and Crafts University

二本松学院 創立30周年記念メッセージ

Greetings for the 30th Anniversary of
Nihonmatsu-gakuin Educational Institution

京都建築大学校 校長

川北 英



1991年(平成3年)に産声を上げた“教育のかたち”が30年後に今日のようなかたちとしてその質を落とすことなく発展し、さらなる高みを目指していることに改めて敬意を表するとともに、その活動に参画しているものとして身が引き締まる思いがします。

1991年という時代を振り返りますと、長らく続いていたバブル経済が破綻し湾岸戦争が勃発するといった激動の時代でした。それまでの常識や価値観が通じなくなる全社会的パラダイムシフトが起こった時代です。建築的にはポストモダンといわれた丹下健三氏の新東京都庁舎が完成し、次なる新しいデザインの模索に突入した時代でもあります。

激しく変化する時代の中でこの学院が選んだ“教育のかたち”は『本物を作り出す人材』の育成を目指すというものでした。どんなに価値観が変化しても、最後に生き残るものは“本物”だという信念です。それは今もこの学院の創学の理念として生きています。変わりゆく新しい時代の価値観やノウハウを敏感に取り入れながらも、一方でこの国が育ててきた変わらざる文化と伝統、この二つを車の両輪として今後もモノづくり人材を育ててゆくつもりです。

幸いなことにこの国には長い歴史と素晴らしい文化があります。これらを継承し発展させてゆくためには、教育が大切であることは皆さまも異論がないと思います。当学院の卒業生が様々な世界で活躍していることを見ますとこの“教育のかたち”が間違っていないと感じています。私たち教育現場の人間は今まで以上に情熱をもってやってゆく覚悟ですが、これからの新しい30年を今まで以上に輝けるものにするために引き続き皆様のご支援・ご鞭撻、ご理解をお願い申し上げます。

Ei Kawakita
Principal, Kyoto Architectural Super College of Design

The Nihonmatsu-Gakuin Educational Institution, Incorporated was established in 1991. Since then their idea of education has been constantly developing, keeping its high quality and aiming still higher for 30 years. I cannot help paying my best respect to this fact and I have to keep it in mind as a member of the team. The year 1991 was a year of turbulence, when the economic bubble burst and the Gulf War broke out. So-called a radical paradigm shift affected the whole society, which made our conventional values and ways of thinking totally helpless. In the field of architecture, the new Tokyo Metropolitan Government Building was completed in that year. It was designed by Kenzo TANGE, and is now considered as an example of Post-Modern architecture. It was the time when we architects started to search for new designs and new approaches for the next epoch. Established in the days of such a rapidly changing society, the Nihonmatsu-gakuin Educational Institution aimed at fostering creators who should produce “real things”. The idea behind is that “real things” should surely survive, no matter how the values of the society change. This idea has been staying with us in our education till today. We have adopted new values and know-hows, while keeping unchanging culture and tradition, which this country has been nurturing in history. With these two elements as the axis, we will keep educating and fostering creators. Fortunately there is a long history and fascinating culture in this country. In order to succeed to them and further develop them, it goes without saying that education is definitely important. Seeing our graduates working actively in various fields, I can reconfirm that our idea of education has been right. To make the next 30 years even brighter, we will keep striving for our mission with our greatest passion in the field of education. We thank you all and appreciate your continuing support and encouragement.

MESSAGE [挨拶]

京都伝統工芸大学校26年の歩み

Twenty-Six Years of Traditional Arts Super College of Kyoto

京都伝統工芸大学校 校長

新谷 由貴代



今から29年前、通産省(現・経済産業省)が「近い将来、徒弟制度が崩壊し伝統工芸の後継者がいなくなる」という危機感から「伝産法」を改正し、全国の都道府県に伝統工芸の学校を作ってほしいという要請を出しました。5～6の都道府県から手が挙がったものの実現に至らず、通産省は伝統工芸の中心地「京都」での設立を要望し、そこで白羽の矢が立てられたのが当学院でした。日本固有の伝統産業と日本文化の継続維持・発展のためには後継者育成の学校設立は不可欠であるとの思いから開校を決意しました。

手探りで始めた設立準備もスタートから数々の困難が待ち受けていました。京都には多くの伝統工芸分野が存在し、多くの団体組合が存在します。その一つ一つの組合と提携し協力体制の下で後継者育成を担っていかねければなりません。しかし、当時は最後の徒弟制度も僅かながらに残っておりその反発は大きなものでした。根気よく一つ一つの難局を多くの皆様のご協力で乗り越え、京都伝統工芸大学校が誕生しました。

開校から20年までの学生たちはハングリー精神がとても強く、朝8時から夜8時まで実習に励む姿がどの分野の実習室でも見られましたが、ここ6～7年前から居残り実習の姿はほとんど見られず、学生たちは定時の授業内で帰宅しています。これは「ゆとり教育」が定着した世代と重なります。基礎実習の定着スピードも大幅に遅れ、課題を時間内にこなすことの出来ない学生が見られるようになりました。そこで、数年前から2年間で基礎実習を完了させる過程から4年間でじっくり技術を学べるようカリキュラムを見直し、現在では7割以上が4年制コースで学んでいます。また、当校は高度専門課程を文部省から認定され、卒業後大学院に進学もできます。放送大学との長年の提携により多くの4年制の卒業生が大学卒業資格(学士号)を取得するという、専門学校として新たな教育スタイルを構築しました。

後継者の育成だけでなく、伝統工芸技術の学びと同時にデザイン・自己プロデュース力を身に付けた工芸クリエイターを育成するコースも設けています。また、文化財修理に係る関心の高まりから新たに文化財修復コース(仮称)を設置するべく準備に入っています。

現在TASKの卒業生は3300名を超えました。多くの卒業生は伝統工芸業界で活躍し、京もの認定工芸士・伝統工芸士の称号を得て、日本伝統工芸展・日本クラフト展での入賞や全国伝統的工芸品公募展では内閣総理大臣賞を連続で受賞するなど大いに活躍しています。このようにTASKは、設立時に期待されていた実績を出しており「TASKが無ければ伝統工芸の業界は後継者がおらず大変なことになっていただろう」と関係の皆様から言っています。

今後も、伝統工芸の技術と精神を後世に繋げ、伝統工芸の技術を現代の日本はもとより世界で生かせる人材の育成に励んでまいります。

The Ministry of International Trade and Industry (currently Ministry of Economy, Trade and Industry) amended the law (the Act on the Promotion of Traditional Craft Industries) 29 years ago with a sense of crisis, "the apprenticeship system will soon collapse in Japan and there will be no successor in the field of Japanese traditional crafts in the near future." They asked all prefectures nationwide if they could establish schools of traditional crafts. Some prefectures raised their hands, but the projects were not realized. The Ministry then requested the establishment of a school in Kyoto, the center of traditional arts and crafts, and our Educational Institution was appointed. Realizing that fostering successors to take over Japanese traditional arts and crafts was absolutely necessary for the traditional industry as well as for Japan's culture, we decided to establish a school of traditional arts and crafts.

We set out to establish the school and encountered many difficulties from the beginning. There are various fields of traditional arts and crafts in Kyoto, and accordingly there are many craftsmen's associations. It was necessary to cooperate with those craftsmen's groups in order to foster successors in the school system. However, there was a lot of opposition from those who wanted to keep the feudal apprenticeship system which just barely remained in those days. With the support and cooperation of many people, we patiently overcame each and every difficult situation, and finally Traditional Arts Super College of Kyoto (TASK) was established.

In the first 20 years, many students showed a very strong motivation and ambition, and they worked from 8:00 in the morning until 8:00 in the evening in the college workshops. They had a kind of "hungry spirit." But some years ago, we realized that more and more students began to prefer leaving school on time instead of staying extra hours in their workshops. This new age group overlaps with the generation who received so-called "Yutori education" (slow-paced, easy-going education). This was the education system the Japanese government strongly promoted at the beginning of the 21st century. Without spontaneous additional efforts, the speed of the acquisition of basic techniques was significantly slowed down, and some students were even unable to complete their assignments in time. We reviewed the curriculum and altered it to suit the students of the new generation. In addition to the original program to acquire basic techniques in two years, we added four-year programs for those who want to learn techniques thoroughly in four years. Currently, more than 70% of our students are studying in the four-year programs in our college. Our 4-year "Highly Specialized Program" was accredited by the Ministry of Education, and the graduates are eligible to go on to graduate schools. Thanks to a long-standing partnership with the Open University of Japan, our college has created a new educational style of a vocational school, where many graduates of the four-year programs obtain a college diploma (bachelor's degree).

We have also set up a creator training course to foster creators of arts and crafts, who not only have techniques but also have skills of design and self-production. Furthermore, in response to the growing interest in restoring cultural properties, we are preparing to set up a new cultural property restoration program (tentative name).

Currently there are more than 3,300 graduates of our college, TASK. Most of them are active in the traditional arts and crafts industry, holding a title of "certified craftsman for Kyoto arts and crafts" or "craftsman for traditional arts and crafts." Some of them have successfully won prizes at the Japan Traditional Arts and Crafts Exhibitions and Japan Crafts Exhibitions. Some even received the Prime Minister's Award at Japan's Traditional Craft Competition repeatedly. TASK has been making various achievements in response to the expectations at the time of its establishment. "Without TASK, the traditional craft industry would have been in a difficult situation without successors," says everyone involved.

We will continue to pass on the techniques and spirit of traditional arts and crafts to future generations and will strive to develop human resources who can utilize the craftsmanship not only in Japan but also in the world.

Yukiyo Shintani
Principal, Traditional Arts Super College of Kyoto



文部科学省高等教育局私学部長

森 晃憲

学校法人二本松学院の創立三十周年を心からお祝い申し上げます。

学校法人二本松学院は、「実学主義」を基軸とし、実社会で活躍する人材の育成を理念に掲げて平成二年に創設され、三十年を経た現在、それぞれに特色のある大学及び二つの専門学校を擁する学校法人として発展されました。

これもひとえに新谷秀一理事長をはじめ、歴代の役員、教職員の皆様のたゆみない御努力はもとより、保護者や卒業生など関係各位の温かい御支援の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

今日我が国における社会構造や産業構造は、新型コロナウイルス感染症の影響も受け、一層急激な変化が見込まれており、また、急速な国際化、情報化の中で大きな転換期を迎えております。このような変化に柔軟に対応できる人材の育成は、我が国の最も重要な課題であり、特に、私立学校においては、それぞれの学校法人が建学の精神に基づき、個性や特色を十分に発揮した教育活動を展開していくことが、より一層重要になってまいります。

こうした中、建築分野と伝統工芸分野それぞれの専門学校での教育を発展させて平成二十四年に開学した京都美術工芸大学では、建築と芸術の新たな融合教育掲げて高度な専門職業人の養成に取り組まれており、平成二十九年に京都東山キャンパスを開設、さらに令和二年度には大学院を開設するなどさらなる充実を図りつつ発展されています。

長い歴史に育まれた「ものづくり」の精神が息づく京都において、ものづくりで未来を創造していける有為な人材を社会へ輩出している二本松学院に対する社会からの期待は、今後ますます高くなるものと考えております。

創立三十周年を契機として、これまで築き上げてこられた実績の上に、役員、教職員、学校法人二本松学院で学ばれている方々及び関係の皆様の一層の御研鑽と御尽力により、ますますの御発展を遂げられますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



近畿経済産業局長

米村 猛

学校法人二本松学院が創立30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴学院は平成2年の創立以来、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学の開校により、実社会で活躍する優れた人材を多方面に輩出されております。これもひとえに、新谷理事長をはじめ関係各位の御努力と、京都府下の産業界の御協力、京都府、園部町等関係自治体の御支援の賜であり、深く敬意を表する次第であります。

この中で、京都伝統工芸大学校は、当省所管の「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づく支援計画の認定を受け、日本を代表する匠の技を持つ工芸士の方々を講師に迎え、一流の技術指導と総合的な教育システムを備えた伝統工芸に特化した唯一の人材育成機関として多数の人材を輩出し、伝統工芸産業の振興に多大な貢献をしてこられました。

地域経済社会の担い手である伝統工芸産業を巡る環境は、構造的問題に加え、コロナ禍により大変厳しい状況にありますが、2025年に開催される大阪・関西万博の基本計画でも伝統工芸が取り上げられるなど、これまで以上に関心が高まることが考えられます。

近畿経済産業局では、伝統工芸産業の後継者育成、新たな商品・デザインの開発や、販路拡大のための支援事業に取り組んでおります。また、地域一体となって伝統工芸品をはじめとした地域産品のブランド化、ひいては地域全体のブランド化を目指して「地域ブランドプロジェクト」を昨年から開始しました。

コロナ禍により生まれた「新たな日常」への対応が求められる今、人材の重要性はますます高まっています。貴学院におかれましては、伝統工芸産業の次の世代を担う優れた人材の育成等を通じて、地域経済社会の発展に一層御尽力いただきますことを期待しております。

結びにあたり、学校法人二本松学院の今後益々の御発展を心から祈念申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

MESSAGE [祝辞]



京都府知事

西脇 隆俊

この度、学校法人二本松学院の創立並びに京都建築大学校開学30周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

学校法人二本松学院は、京都建築大学校を南丹市園部町に開学されて以来、独自の教育システムを駆使し、これまで建築・インテリア分野において即戦力となる人材の育成に尽力されますとともに、京都伝統工芸大学校や京都美術工芸大学においては、日本の伝統工芸や美術工芸分野の明日を担う優れた人材を数多く輩出してこられました。

創立30周年を迎えられ、創立の地である園部キャンパスでは学生の福利厚生施設や校舎の拡張整備に加え、新型コロナウイルス感染症への対応として遠隔授業のためのシステムを整備され、また、東山キャンパスの新校舎建設等により、さらに充実した教育環境を実現されるものと大いに期待しているところでです。

京都建築大学校及び京都伝統工芸大学校では、制度創設当初から職業実践専門課程の認定を受けられるなど、企業や一流の講師と連携した実践的な教育にもいち早く取り組んでこられました。これもひとえに新谷理事長をはじめ学校法人二本松学院並びに関係者の御努力と各団体や各業界の御支援の賜物であると、心から敬意を表する次第です。

京都府としまして、国と歩調を合わせ、昨年度からスタートした高等教育の修学支援新制度により、経済的に厳しい状況に置かれている専門学校生の学びたいという気持ちを、授業料減免と給付型奨学金の両輪により支援してまいります。

結びに当たり、学校法人二本松学院が今後ますます発展され、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校並びに京都美術工芸大学が、日本の建築、伝統工芸、美術工芸等の各分野を担う人づくりの拠点としてますます発展されますことを期待申し上げますとともに、関係の皆様方の御多幸と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



京都市長

門川 大作

全ては「学生のため」。そんな強い信念の下、我が国の建築技術、伝統文化の継承・発展を支え、担い手の育成に力を尽くしてこられた学校法人二本松学院の皆様。その貴い歩みが、この度、創立30周年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。新谷秀一理事長をはじめ全ての関係者の皆様に深く敬意を表します。

貴学院は、建築の技術者不足が顕在化していた平成3年に「京都建築大学校(旧京都国際建築技術専門学校)」を設立。在学中に二級建築士や大学卒業資格が取得できる体制構築など、先駆的な取組を進めてこられました。さらに、平成7年には京都伝統工芸大学校(旧京都伝統工芸専門学校)、平成24年には京都美術工芸大学を開校され、後世に継承していくべき京都、日本の大切な文化芸術の担い手を育てておられます。そして平成29年には、東山区の貞教小学校跡地に京都美術工芸大学の京都東山キャンパスを開設されました。

貞教小学校は、明治維新で事実上都の地位を失い都市存亡の危機にあった京都の町衆が、「まちづくりは人づくりから」との信念の下、全国に先駆けて創った伝統ある番組小学校です。先人たちの「人づくり」の志を受け継いだこの“東山キャンパス”を核に、貴学院は、文化財を活用した観光振興、伝統工芸の担い手育成による伝統産業振興、地域活性化に積極的に貢献しておられます。大変心強い限りです。

昨今のコロナ禍においても、オンラインを活用した授業や学生募集など挑戦を続けておられる皆様。そんな皆様のお姿に力をいただきながら、本市ではコロナ危機を乗り越え、「大学のまち・学生のまち京都」の更なる発展と、京都に全面的に移転する文化庁とも手を携えた「文化を基軸としたまちづくり」に全力を挙げてまいります。一層のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、学校法人二本松学院が、この度の節目を機にますます発展されますことを祈念いたします。



南丹市長

西村 良平

学校法人二本松学院がめでたく創立30周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

貴学院は、平成2年の創立以来、南丹市の園部キャンパスに、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学の3校を開学され、今日まで多くの輝く才能を輩出してこられました。

現在ではその高い専門性と特色が衆目を集め、全国から入学志望者が集まる名門校へと伸展され、多くの卒業生が各界へはばたき、それぞれの分野で目覚ましい活躍を続けておられます。

また、新谷理事長様におかれましては、豊富な見識と卓越した指導力に基づき、職員の皆様と一丸となってより良い学院運営に努めてこられ、地域に根ざした学校として、若き力を積極的に地域に還元していただいておりますことも、地元市長として深く敬意を表するとともに、心から御礼申し上げます。

そのような中、貴学院と南丹市は平成26年に連携協力包括協定を締結して以降、ともにまちづくりを進めてまいりました。

豊かな自然環境と多彩な伝統文化のもと、工業団地「京都新光悦村」を有し、伝統産業と先端技術の融合をコンセプトとした「ものづくりのまち」として発展してきた本市ですが、今後も貴学院との連携を図りつつ「ものづくりのまち南丹市」として、全国に魅力を発信してまいる所存です。

近年、高齢化や後継者不足により、技術者の数が減少傾向にある中、伝統技術を守りながらも、新しい「ものづくり」に挑戦する若手技術者の育成が急務となっています。

今後とも、貴学院が、人材育成と文化継承の拠点として、創造力豊かな技術者を育て上げ、「ものづくり」の未来に貢献されることをご期待いたします。

最後になりましたが、学校法人二本松学院の今後益々のご発展とあわせて、新谷理事長様をはじめご関係の皆様方の益々のご活躍とご健勝をお祈りし、結びとさせていただきます。

MESSAGE [祝辞]



一般社団法人
日本建築学会前会長(第56代)
京都大学教授

竹脇 出

京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学を運営する二本松学院が創立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。日本の建築士や建築技術者を育てるという強い思いのもとで、それを実践してこられました新谷理事長様をはじめとする学院の方々のご努力に敬意を表します。

私は、2010-2014年度に京都建築大学校において放送大学による授業を担当させていただきました。京都建築大学校の学生さんは大変勉強熱心で、将来建築を専門職とする高い理想のもとで意欲的に勉強されていることに感銘を受けました。また、京都伝統工芸大学校とも緊密に連携され、建築設計教育に伝統工芸の考えや技術が生かされていることも強く感じました。

日本建築学会は、1886年に創設され(当初は造家学会)、学術・技術・芸術の3本柱を調和的に追求していくことを目指しています。建築学会はどちらかといえば学術に重心を置きがちですが、私が学会の監事を務めておりましたときに作品選集新人賞という若手建築家を表彰する制度の創設を提案しました。現在では、毎年10人程度の方々表彰され、若手建築家が学会に参加される動機付けを与えることに貢献しています。

当学院の建築教育は、学術・技術・芸術の3本柱の中でも、学術に基礎を置きつつ特に技術・芸術により一層の力を入れられていると感じています。現在、日本の大学の世界における学術業績の評価は大変厳しいものがありますが、建築分野では世界においても独創的な設計・構造・環境が一体となった教育が功を奏し、かなり独自性の高い教育が行われ高い評価を得ています。また、昨年から一級建築士の受験資格が緩和され建築分野を目指す若手技術者や学生の意欲を高めるよい動機付けとなっていると感じています。

今後も、二本松学院の建築教育が、日本の建築士や建築技術者を育てるロールモデルとなって牽引していただくことを期待しております。

MESSAGE [祝辞]



一般社団法人 京都府建築士会
顧問(前会長)
株式会社 ひと・まち・建築設計
代表取締役

衛藤 照夫

まずは、二本松学院様、開校30周年おめでとうございます。
京都府建築士会の前会長として貴校のご活躍に寄与できたことを嬉しく思います。

私は、病院建築などの建築設計に従事していますが、同時に京都市芸術文化協会での活動、大阪市立大学で非常勤講師職などに就いています。この度、貴校の歴史とその成果を再度拝見し、ここに、お祝いの詞を申し上げます。

貴校には、建築士会会長時代に建築大学の卒業作品展の審査や卒業式参列をさせていただきましたが、学生諸君の活気あふれる姿と先生方の熱気がいまでも忘れられません。

当時は、建築大学校、伝統工芸大学校が中心でしたが、その後、京都美術工芸大学ができ、美術工芸分野と建築分野の大きな2つの路線が確実なものとなる力強い過程に驚かされました。

さて、本校に学ばれている学生諸君に申し添えさせていただきます。

私は、建築分野でときを重ねてきたものとして、建築はさまざまな分野の学と実社会の技の総合で成り立つものと考えています。その意味で、建築はひとびとの暮らしに立脚し、また、ものづくりの精神を持つことが不可欠なのです。

この学と技の日々の精進が実を結ぶためには重要なことがあります。それは、美的なことを理解し感じられる素養であり、その資質の発露です。このことを考えると、この素養を伸ばし、自身の資質として育てていく機会が本校にあるように思えてなりません。学生諸君は、ここで大いに学び、精進していただきたいのです。

現在、世界と日本は新型コロナ禍に見舞われています。不自由な状況ですが、考え、創造力を発揮することは自由です。感染症が収まったとき花を開かせるためのときと念じ、ここでの学びを大切に、将来社会の大切な分野で活躍されることを祈念し、お祝いの寄稿文と致します。



一般社団法人
日本インテリアプランナー協会
会長

霜野 隆

2020年の学校法人二本松学院創立30周年に際し、心からお祝い申し上げます。

学校法人二本松学院は、1991年に京都建築大学校(旧:京都国際建築技術専門学校)の開校に始まり1995年の京都伝統工芸大学校、2012年の京都美術工芸大学を開学以来、教育・研究を通して、多くの有為な人材を社会に送り出し、日本の伝統工芸や文化の発展に重要な役割を担ってられました。

これまでの幾度もの変革期を乗り越え、学校法人二本松学院が創立30周年を迎えられましたことは、誠に意義深いことであり、これもひとえに歴代の総長、各職員をはじめ関係の皆様のご尽力の御賜物と心から敬意を表します。

インテリアプランナー(IP)資格は、1987年に国土交通省の国家資格としてスタートし、2001年から、公益財団法人建築技術教育普及センターの資格制度となりました。

この資格は、建築士の知識(建築基準法・構造・設備等)も有しながらインテリア関連の専門技術者をいいます。商業施設や公共施設、オフィス、住宅などの建築物の室内空間の企画・設計から工事監理、マネージメントに至までトータルで請け負うことができ、現在全国に約6千人の登録者がいて、インテリア関連の様々なところで活躍しています。

2016年より資格試験制度が見直され、年齢制限、学歴・職域に関係なく受験可能となり学科試験に合格すると、「アソシエイト・インテリアプランナー(AIP)」の資格が得られ仕事や就職活動の一助に、そして製図試験に合格すると、「インテリアプランナー(IP)」の資格が得られるようになりました。

当協会では、受験者のための「インテリアプランナーガイドブック・学科編」、「インテリアプランナーガイドブック・製図編」の編著、そして全国10の地域協会で、受験のサポートをおこなっています。学校法人二本松学院では、建築学科・美術工芸学科等があり、インテリア関係を目指す方々には、是非トライしていただけたら嬉しく思います。

最後に、この栄えある創立30周年を契機として、今後学校法人二本松学院関係者の皆様方のますますの御発展を心から祈念して祝辞と致します。



一般財団法人
伝統的工芸品産業振興協会
代表理事

宮川 孝昭

学校法人二本松学院におかれましては、創立30周年を迎えられ、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。この日を迎えることができましたことは、ひとえに理事長 新谷秀一様をはじめ、学院の皆様方のご尽力のたまものであり、さらには関係各位のご支援あつてのことと深く敬意を表し、お慶びを申し上げます。

日本最初の小学校が開校した京都において、「学生の幸せを第一に考える」を建学の精神とし、「京都建築大学校」、「京都伝統工芸大学校」、「京都美術工芸大学」の3大学を開学し、「京都伝統工芸館」及び「大阪都島工芸美術館」を開館されたばかりではなく、資格取得システムの確立、高い技術力を保持する講師方による伝統工芸の新しい後継者育成環境の実現や学年を超えた実習体制など、日本の教育システムにはなかったことに挑戦をされてられました。

学院独自の新しい学校教育による学生がより学びやすい教育環境づくりを徹底したことにより、世界で活躍できる人材が育ったことと存じます。

特に京都伝統工芸大学校の卒業生には、後継者確保に悩む全国の伝統的工芸品産地にて技術後継者として就業・活躍されている方も少なくなく、わが国の工芸品産業の継承発展における貴法人のご貢献は誠に大なるものがあり、改めて厚くお礼申し上げます。

当協会といたしましても微力ながら、伝統的工芸品産業の発展のために努めてまいりますので、今後ともお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

学校法人二本松学院が創立30周年を契機に、さらなる革新的な教育方針により高い技術力と精神を保持される人材が輩出され、世界でご活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

MESSAGE [祝辞]



京都伝統工芸協議会
会長

田中 雅一

このたび、学校法人二本松学院が輝かしい創立三十周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

貴学院は、平成2年に京都府から認可を受けて設立以来、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、京都美術工芸大学の3校を開学され、建築、工芸、美術と多岐にわたる分野で数多くの優秀な人材を輩出してられました。

これもひとえに、新谷秀一理事長をはじめ、役員、教職員、関係者の皆様方のたゆまぬご努力の賜物と深く敬意を表します。

とりわけ、京都伝統工芸大学校におかれましては、本協議会の会員をはじめ、各業界から代表者等を講師に迎えられるなど、現代的教育カリキュラムと伝統工芸業界の従来の従弟制度をうまく融合し、技術力や創造性の豊かな人材を生み出す教育を続けてられました。このような直接技術指導を受けられる教育は、各方面から高い評価を得ており、我々も大いに期待するところであります。

ご承知の通り、著しく変化する社会情勢の中で、伝統工芸業界は後継者不足に加え、少子高齢化に伴う人口減少と消費の減退、生活スタイルの変化といった様々な課題に直面しており、貴学院の「実学主義」を基軸とされた「真のキャリア教育」の実践が、より一層重要性をもつことになると考えます。どうぞ今後におきましても、引き続き一層の教育の充実を図られ、創造性の豊かな人材を生み出されることを願いますとともに、本協議会といたしましても、貴学院の皆様と連携を図りながら、伝統産業の振興に力を尽くして参る所存であります。

結びにあたり、学校法人二本松学院の創立三十周年を契機として、貴学院の今後更なるご発展と、役員、教職員、在学生、卒業生及び関係者の皆様方の一層のご繁栄とご多幸を心より祈念しまして、私のお祝いの言葉といたします。

MESSAGE [祝辞]

私と建築との関わりは18歳で入学したこの学校からスタートした。

入学から約30年という自身の歩みは、二本松学院の30年と共にあったと言える程、関わりの深いものであると感じている。

卒業後、設計事務所に就職、その後独立し自身の事務所を構えると同時に非常勤講師としても20年、母校である二本松学院で後輩の指導に現在も携わり続けている。

思い返せば入学当時、開校二年目の二本松学院は校舎も2号館まで、入学から三年目の二級建築士の資格に挑戦する専科の課程では3号館まで拡張され、年々拡張され続けた結果、現在においては

京都伝統工芸専門校(現 京都伝統工芸大学校)の1期生として入学したのが、27年前。伝統工芸のことをよく知らない21歳の時でした。

子供の頃からものづくりが好きでしたが、竹工芸が身近にあったわけでもなく、なんとなく楽しそうだなという感覚だけで選んだのですが、先生方の技のすばらしさに魅了され憧れを抱くようになりました。

一期生は、43人と人数が少なかったこともあり、在学中は竹工芸以外の多くの先生とお話することが出来、物づくりに向き合う姿勢など数多くのことを教えていただくことが出来ました。

この度は、二本松学院が創立30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

日本の伝統工芸技術を学びたい、そして新たなものを生み出したい!そんな思いから私は京都美術工芸大学1期生として入学し、4年間学ばせていただきました。

社会経験を経てからの大学。先輩のいない大学。不安でいっぱいでしたが、「自分達が学校の基盤を作るんだ」という意識が高い仲間達と共に切磋琢磨した日々。時には教職員の方々と対立することもありました。この時の経験が私の人生に大きな影響を与えてくれました。

「濃すぎた4年間」。卒業後、同期や後輩達と語る

全体を把握することは難しく、地図が無ければ目的地にたどり着けないまでの規模となっている。構内で彷徨う自分に30年という歳月の重さを思い知るところである。

学生から非常勤講師へと関わり続けた、この30年間に様々な出会いがあり、学生からも数えきれない程多くの学びを頂いた。教えることは学ぶこと。学びの場である学校という場所、この二本松学院で18歳から30年間私は学び続けている。

現在の自分自身を振り返り、二本松学院の30周年に最大限の感謝と賛辞を送ります。二本松学院開校30周年おめでとうございます。

知れば知るほど難しく、奥深く、そして楽しい竹工芸の世界。学校を卒業し講師として25年、竹を編む技法は数限りなくあり勉強の毎日です。我が師であり竹工芸教授の石田正一先生と共に技術面だけでなく、竹工芸の楽しさも学生に伝えていきたいと思います。後世により良い技術を残すお手伝いができれば幸いです。

竹工芸との出会いが人生を変えてくれました。きっかけを与えてくれた二本松学院には感謝の気持ちでいっぱいです。

二本松学院の益々の発展を祈念いたします。

時に必ず出てくる言葉です。

様々な課題、コンペ、プロジェクト、イベントに取り組む中、2年目にはWスクール、対策講座も始まりました。苦しみながらも全てをこなせたのは、やはり最高の同期、最高の後輩、そして最高の先生方の存在があったからです。

現在、私は京都美術工芸大学でデザイン系の科目を教えています。この大学の良さである「教員と学生の距離の近さ」を大切に、学生たちに「濃い4年間」を経験してもらえよう日々精進しています。

最後になりましたが、二本松学院のさらなる発展を祈念いたします。



京都建築大学校
同窓会代表
京都建築大学校 非常勤講師
ヒグチヒロユキ一級建築士事務所
代表

樋口 浩之



京都伝統工芸大学校
同窓会代表
京都伝統工芸大学校 講師・竹工芸

泉美 宏延



京都美術工芸大学
同窓会代表
京都美術工芸大学 講師・デザイン

木村 奈保



1995年6月3日 京都新聞



1991年4月4日 京都新聞

30年の あゆみ

KYOTO ARTS AND CRAFTS UNIVERSITY
KYOTO ARCHITECTURAL SUPER COLLEGE OF DESIGN
TRADITIONAL ARTS SUPER COLLEGE OF KYOTO

国際学園都市づくりを推進する京都府園部町(現南丹市)から誘致を受け1991年、京都建築大学校を開校。1995年、国と京都府、伝統工芸産業界の要請を受けるかたちで京都伝統工芸大学校を開校。そして2012年、先行する二つの大学校の実績と経験をさらに発展させ、京都美術工芸大学を開学。さらに2017年には京都東山キャンパスを開設。1200年の歴史と伝統のある文化芸術都市京都で、常に本物にふれることができる環境を整え、我が国の文化のさらなる発展に貢献できる人材を育てる場としてさらに進化させていきます。

年表記載の略称

KYOB＝京都美術工芸大学

KASD＝京都建築大学校

TASK＝京都伝統工芸大学校

1990 (平成2年)

- 第1次校地拡張整備造成工事着工

KASD

- 京都府知事より京都国際建築技術専門学校設立認可を受ける



●1号館竣工

- 大阪市で国際花と緑の博覧会が開幕
- 東西ドイツ統一
- ゴルバチョフ・ソ連大統領がノーベル平和賞を受賞
- 第一回大学入試センター試験実施

1991 (平成3年)

KASD

京都国際建築技術専門学校(現:京都建築大学校)開校



●2号館竣工

- 雲仙普賢岳で大火砕流発生
- イラク空爆開始、湾岸戦争勃発
- 若貴ブーム、千代の富士引退

1993 (平成5年)

KASD

- 専科設置届の提出(京都府認可)
- 二級建築士/木造建築士受験資格校の認定

TASK

- 国・京都府・伝統工芸産業界が一体となり第三セクター(一財)京都伝統工芸産業支援センターを設立
- 通産省(現:経済産業省)より伝産法に基づく「支援計画」を認定
- サッカー「Jリーグ」開幕
- 皇太子徳仁親王、小和田雅子さまご結婚
- ネルソン・マンデラ氏がノーベル平和賞を受賞
- EU発足
- 屋久島・白神山地が世界自然遺産に登録

1995 (平成7年)

KASD

- 専門士称号付与認可

TASK

京都伝統工芸専門校(現:京都伝統工芸大学校)開校



●3号館竣工

- 兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)発生
- 地下鉄サリン事件発生
- 野茂英雄投手が米大リーグで活躍、新人王に
- 進学率が専門学校を含めて64.7%に

1996 (平成8年)



●4号館竣工

- 羽生善治氏が史上初、将棋のタイトル七冠独占を達成
- 腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生
- 広島島の原爆ドームが世界遺産に登録される

1998 (平成10年)



●駐車場設置整備

- 長野冬季五輪開催、日本の金メダルは5個
- 「明石海峡大橋」開通
- FIFAワールドカップ・フランス大会開催、初出場の日本は3戦全敗

1999 (平成11年)

KASD

- 郵政省より通信・放送機構計画推進校として専門学校初の認定
- 一級建築士受験資格校の認定

- NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」から生まれた「だんご3兄弟」が大ヒット
- 欧州に新通貨ユーロ誕生
- マカオがポルトガルから中国に返還

2000 (平成12年)

TASK

- 京都府より専修学校の認可

- 新紙幣二千円札発行
- シドニー五輪女子マラソンで高橋尚子選手が金メダル
- ロシア大統領にプーチン氏が就任
- BSデジタル放送開始

2001 (平成13年)

TASK

- 京都府認可の京都伝統工芸専門学校(現:京都伝統工芸大学校)に校名を改称

- 国内初のBSE(牛海綿状脳症、狂牛病)感染牛確認
- ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)が大阪市に開業
- 米マリナーズのイチロー、MVPと新人王受賞
- アメリカで同時多発テロ

2002 (平成14年)

KASD

- 放送大学との提携により専科(大学卒業資格取得コース)の設置届を提出(京都府認可)
- イギリス・ケーベルマナーカレッジと提携調印

TASK

- イタリアとの交流事業がスタート

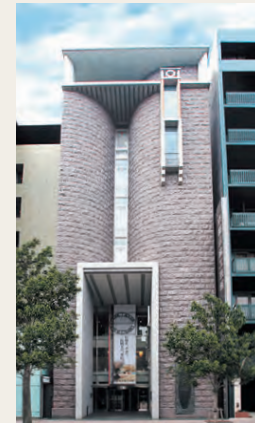


●5号館竣工

- FIFAワールドカップ・日韓大会開催、日本は初のベスト16
- 小泉首相訪朝、初の日朝首脳会談
- 完全学校週5日制のゆとり教育がスタート

2003 (平成15年)

京都伝統工芸館が開館



- イラク戦争始まる
- 新型肺炎(SARS)が中国などで大流行
- 宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」が第75回アカデミー賞長編アニメ映画賞を受賞
- 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ
- 日本郵政公社発足
- 「六本木ヒルズ」オープン
- 地上デジタル放送開始

2004 (平成16年)

- 二本松学院研修センター(6号館)竣工



- 京都伝統工芸館に「京の伝統産業」体験観光の案内拠点を開設
- 第2次校地拡張整備造成工事着工

TASK

- 放送大学連携事業をスタート

- イチロー、大リーグの年間最多安打記録更新
- 「冬のソナタ」で韓流ブーム
- 新潟県中越地方で震度7の地震
- 陸上自衛隊イラク派遣



2005 (平成17年)

- 二本松学院駅前研修寮、栄町研修寮竣工
- 7号館、8号館、9号館竣工



7号館



8号館



9号館



和紙工芸研修センター

TASK

- 学校設置者を学校法人二本松学院に変更
- 綾部市に和紙工芸研修センターを開設
- ・野口聡一さんが米スペースシャトル「ディスカバリー」で宇宙へ
- ・愛知県で「愛・地球博」が開幕 ・クールビズ開始
- ・耐震強度偽装事件発覚 ・JR福知山線脱線事故
- ・個人情報保護法施行

2006 (平成18年)

- 学生専用駐車場、二本松学院駅前第3研修寮、第5研修寮竣工

TASK

- 和紙工芸専攻を開講
- 「高台寺蒔絵」の技法を再現



第3研修寮



高台寺蒔絵「秋草」 H900×W1,800mm

- 文殊菩薩像を制作
日本三景のひとつ天橋立の松並木。2004年の台風で200本近い松がなぎ倒されました。その松の再生を託され文殊菩薩像を制作。日本三文殊のひとつ、智恵寺に奉納しました。
- 通産省18年度「サービス産業創出支援事業（観光・集客交流）モデル産業指定」
- 京都府教育委員会受託事業（現職教職員長期研修等）を開始
- ・トリノ冬季五輪で荒川静香選手が金メダル
- ・第1回 ワールド・ベースボール・クラシックが開幕
- ・景気拡大4年10ヶ月連続「いざなぎ越え」



文殊菩薩像
H2,500×W720mm

2007 (平成19年)

- 京都伝統工芸館に天皇陛下(皇太子当時)が行啓
- 二本松学院駅前第2研修寮竣工

KASD

- 京都国際建築技術専門学校から〈専〉京都建築大学校へ校名を改称
- 高度専門課程を新設
- 建築学科設置届(京都府認可)



駅前第2研修寮

TASK

- 京都伝統工芸専門学校から〈専〉京都伝統工芸大学校へ校名を改称
- 高度専門課程を新設
- イタリアISTITUTO VITTORIA芸術学校と交換留学プログラムを開始
- ・日本列島74年ぶり猛暑、熊谷・多治見で40.9度
- ・新潟県中越沖で最大震度6強の地震
- ・石川遼選手15歳で日本のツアー最年少優勝
- ・合同学力テスト43年ぶり実施

2008 (平成20年)

- 1号館、2号館、3号館地球温暖化防止改修工事完了

TASK

- 源氏物語千年紀にちなみ「蒔絵櫛」を制作
源氏物語千年紀に合わせて蒔絵専攻の専攻生14名が蒔絵櫛を共同制作。源氏物語五十四帖を題材に54本の櫛に仕立てました。



H65×W110mm

- 清水寺の大黒天像を修復



- ・米の大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻
- ・後期高齢者医療制度スタート
- ・岩手県内陸南部を震源地とする岩手・宮城内陸地震が発生
- ・「iPhone」日本で発売開始

2009 (平成21年)

- 第3次校地拡張整備造成工事着工
- 第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会が本校園部キャンパスで開催

KASD

- 建築学科を開設

TASK

- 第1回清水寺作品展を開催
- 第1回工芸甲子園を開催
- 日本クラフト展に初入賞
- ・米ポップス界のスーパースター、マイケル・ジャクソンさん死去
- ・第45回衆院選、民主党が大勝 自民党が野党に



清水寺作品展

2010 (平成22年)

- 大阪都島工芸美術館が開館



- 校舎東側(園部駅前)に正門竣工
- 芸術的職人伝統工芸国際憲章(イタリア、フランス、スペインの3機関と)に署名(フランスパリにて)



芸術的職人伝統工芸国際憲章に署名

KASD TASK

- 高度専門士称号付与認可
- ・小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶり帰還
- ・宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」発生

2011 (平成23年)

- 京都伝統工芸館にブータン国王夫妻が来館



- フランス最高峰「エコール・ブール国立工芸学校」とフランス最大の工芸振興組合「アトリエ・アール・ド・フランス」と提携
- イタリア木のトリエンナーレ展入選



●10号館竣工



図書館



●11号館竣工

KYOBİ

- 京都美術工芸大学の設置認可
- ・東日本大震災が発生
- ・なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ優勝
- ・米アップル社元CEO、スティーブ・ジョブズ氏死去



2012 (平成24年)

TASK

- 福知山市と文化芸術振興協定を締結
- 大日如来坐像を清水寺に奉納

東日本大震災の大津波で流された陸前高田市の名勝「高田松原」の松を使用し制作されました。被災地の復興と犠牲者への鎮魂の思いが刻まれています。



大日如来坐像奉納

- 陸前高田市の薪で小仏を制作、被災地に奉納
- 「エコール・ブール国立工芸学校」と交換留学プログラムを開始、合同作品展を開催
- 「カルーゼル・デュ・ルーヴル」に本校教員と卒業生の作品を出展



TASK×エコール・ブール合同作品展

KYOB

京都美術工芸大学が園部キャンパスに開学
日本で唯一の工芸学部

- 東京スカイツリー開業
- 京都大学教授の山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞を受賞

2013 (平成25年)

- 兵庫県川西市と連携協定締結

TASK

- イタリア「ミラノサローネ」に出展
イタリア・ミラノで開催される国際的に有名な家具見本市「ミラノサローネ」に、イタリアの4大学の作品とともに、急遽招待作品として出展。世界中から約30万人が訪れる世界最大級の家具見本市において、本校生作品24点が展示されました。



「ミラノサローネ」に出展

- いのちのバトン制作

埼玉県三郷市立彦糸中学校から依頼を受け、東日本大震災の記憶を風化させないために、「いのちのバトン」を制作。震災の大津波で流され奇跡的に戻り着いた陸前高田の松を使い、文字を彫刻するなどして制作しました。

- ブータン国王に仏像を寄贈

世界遺産・清水寺から依頼を受け、ブータン国王へ寄贈する「聖観音菩薩像」を制作。仏像彫刻専攻の学生や講師が東日本大震災で被災した岩手県陸前高田の松を使用して仏像を制作し、2013年、ブータン国王へと手渡されました。



- 京都府宮津市の依頼により「細川ガラシャ」の木像を制作



- 2020年五輪、東京に決定
- 富士山が世界文化遺産に登録
- 「アンパンマン」の生みの親、やなせたかし氏が死去

2014 (平成26年)

- 京都府南丹市と包括的連携協定を締結

KASD TASK

- 文科省より職業実践専門課程に認定

KASD

- 建築専攻科(1年制・2年制)の設置届を提出(京都府認可)

TASK

- 京都府、京都手描友禅協同組合と新専攻の課程編成に向けた三者協定を調印
- 第5回「上賀茂アートプロジェクト」に初参加
- 現代アートの祭典「ニューブランシュ KYOTO 2014」に初参加

- 消費税率を5%から8%に17年ぶりに引き上げ
- 妖怪メダルを集めるアニメ「妖怪ウォッチ」が大ヒット

2015 (平成27年)

- 福井県鯖江市、鯖江市商工会議所と包括的連携協定を締結



包括的連携協定締結

KASD

- 建築科(建築コース・インテリアデザインコース)を開設
- 建築専攻科(1年制・2年制)を開設



京都創造者賞受賞

TASK

- 琳派400年記念祭関連事業を開催
- 京都創造者大賞2015で京都創造者賞(アート・文化部門)を受賞

- ラグビーW杯で南アフリカを34-32で破る歴史的な勝利
- 訪日外国人観光客激増、爆買いも
- 米、キューバが54年ぶりに国交回復
- 漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の作者で漫画家の水木しげる氏が死去

2016 (平成28年)

- 京都市と包括的連携協定を締結



TASK

- 全国育樹祭出席のため、天皇陛下(皇太子当時)が京都府南丹市を行啓。京都新光悦村にて仏像彫刻専攻の学生が制作した仏像をご見学されました。

- 京手描友禅専攻開講
- 「エコール・ド・コンデ」より留学生を受入れ
- お地藏さんプロジェクト

宗教哲学者の山折先生とイラストレーターの永田萌さんの絵本「おじょうさんはいつでも」の出版を記念し、被災地にお地藏さんを贈るプロジェクトにTASKの石彫刻専攻が協力し、お地藏さんを制作。2016年8月に奉納されました。



- 大阪府堺市の妙國寺 釈迦如来と四菩薩立像制作・奉納

KYOB

- 工芸学部建築学科を新設し、伝統工芸学科と2学科になる

- 熊本県益城町で震度7を観測する地震が発生

2017 (平成29年)

- 京都府宮津市と包括的連携協定締結
- 南丹警察署と「災害時における施設等使用に関する協定」に調印
- アメリカミシガン大学からインターンシップ留学生受け入れ

TASK

- 兵庫県川西市の市民憲章碑を制作

KYOB

京都東山キャンパス開設

鴨川七条ギャラリーオープン



- 九里一平と北斎漫画展

TASK KYOB

- 一坪茶屋プロジェクト

- 九州北部豪雨災害
- 14歳棋士、藤井聡太四段が29連勝の新記録

2018 (平成30年)

KASD

- 全国専門学校建築教育連絡協議会の会場に

KYOB

- 大谷高等学校(京都府)と高大接続連携協定を締結
- 工芸学部の入学定員を増員(建築学科150名 美術工芸学科100名 計250名)
- 伝統工芸学科を美術工芸学科と名称変更
- カタツムリ作戦2018 in KYOTOに参加



TASK

- 長野県上田市の龍顔寺・薬師如来プロジェクトに参加
- 第1回妙顕寺作品展を開催

- 訪日外国人旅行者3000万人超
- FIFAワールドカップブラジル大会、日本は16強入り
- 大坂なおみが全米オープン優勝

2019 (平成31年・令和元年)

- エコール・カモンド装飾芸術学院(フランス)と提携協定を締結

TASK KYOB

- 起き上がりこぼし京都展を開催



KYOB

- 東山高等学校(京都府)と高大接続連携協定を締結
- 「公益財団法人日本高等教育評価機構」による大学機関別認証評価を受け、「大学評価基準適合」と認定される
- 大学院設置認可申請



TASK

- 「今年の漢字」和紙制作プロジェクトに参加

- 新元号「令和」に改元、出典は万葉集から
- 消費税率が8%から10%に引き上げ
- 世界遺産 首里城で火災発生、正殿などが焼失
- ラグビー・ワールドカップ日本大会で日本ラグビー史上初のベスト8入り

2020 (令和2年)

- 第4次校地拡張整備造成工事着工

KASD

- 建築士法が改正されて京都建築大学校では二級建築士資格者は在学中(4年次)に一級建築士が受験、合格が可能となる。2020年初めの挑戦で史上初の2名が一級建築士学科試験に在学中合格

KYOB

- 京都東山キャンパスに京都美術工芸大学大学院(工芸学研究科建築学専攻)を開設
- 大学院生1年生1名が一級建築士学科試験に合格

- 新型コロナウイルス、感染規模が世界に拡大
- 映画「鬼滅の刃 無限列車編」が記録的ヒット

2021 (令和3年)

- 新谷秀一理事長が旭日中綬章を受章

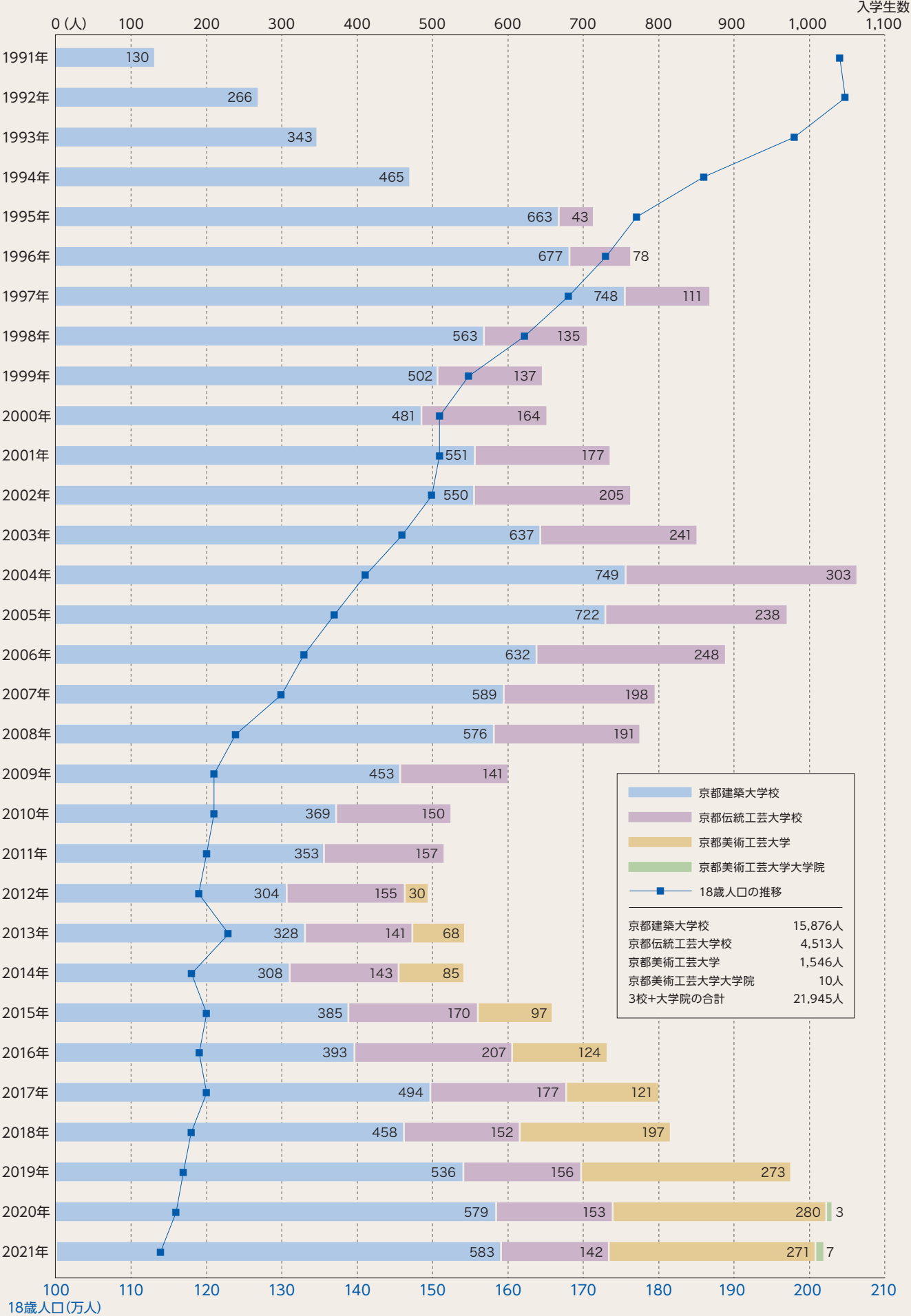
KYOB

- 東山キャンパスに新校舎(新東館)完成
- 文部科学省より建築学部設置認可を受ける

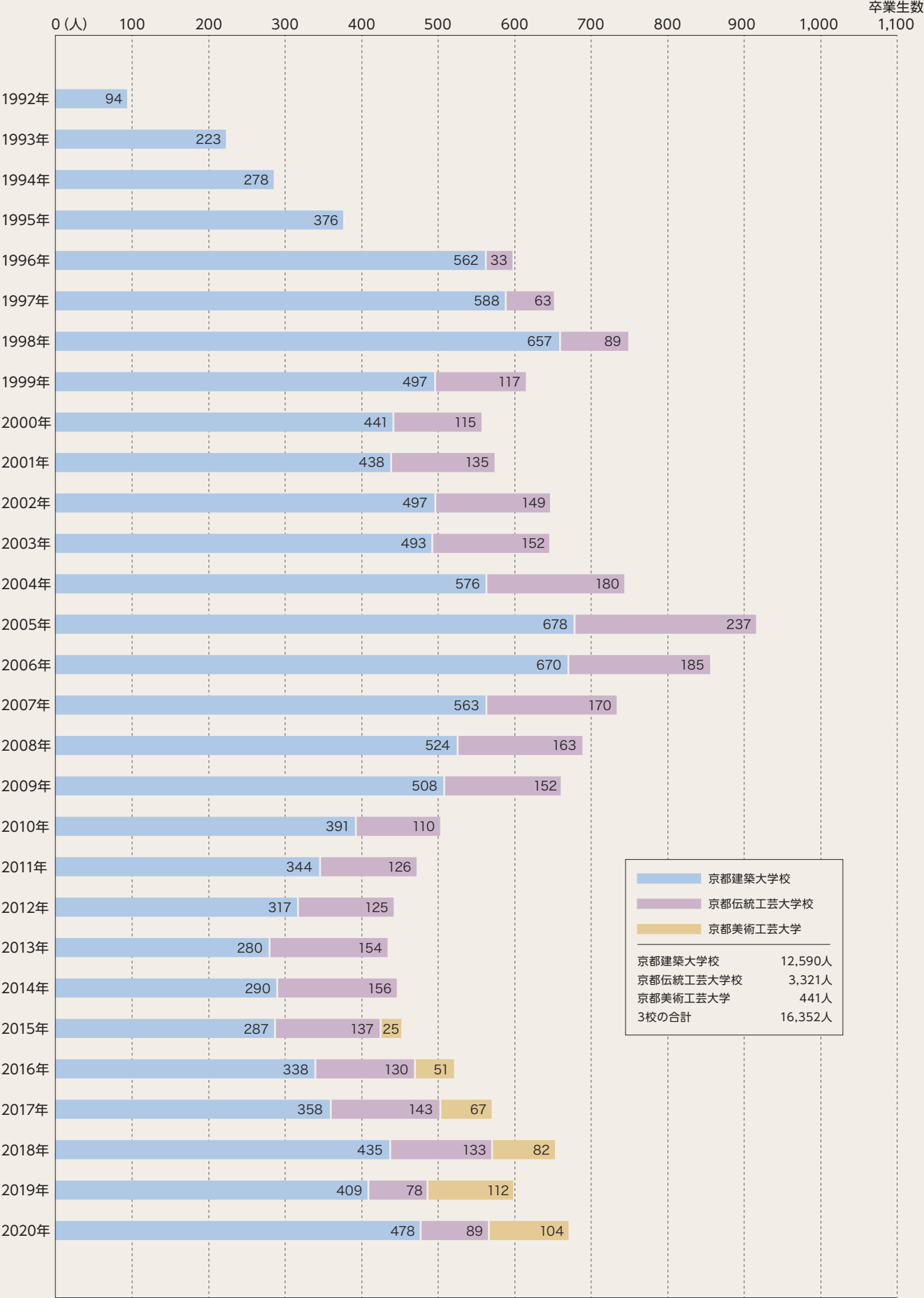
- 田中将大投手、8年ぶり楽天復帰
- 東京オリンピック・パラリンピック開催



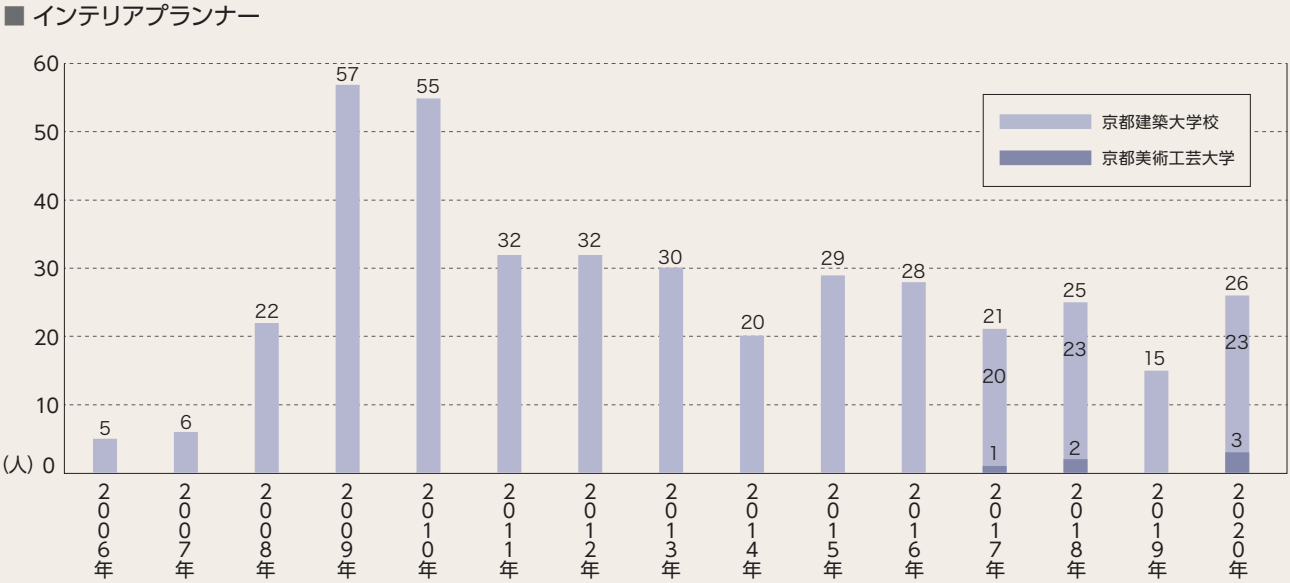
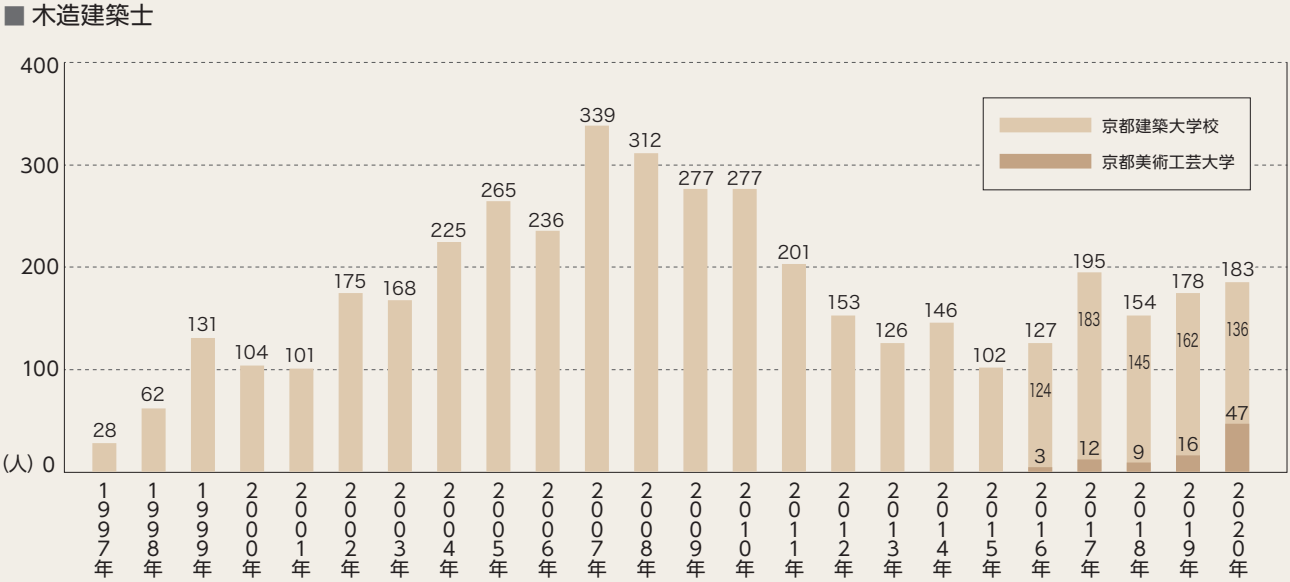
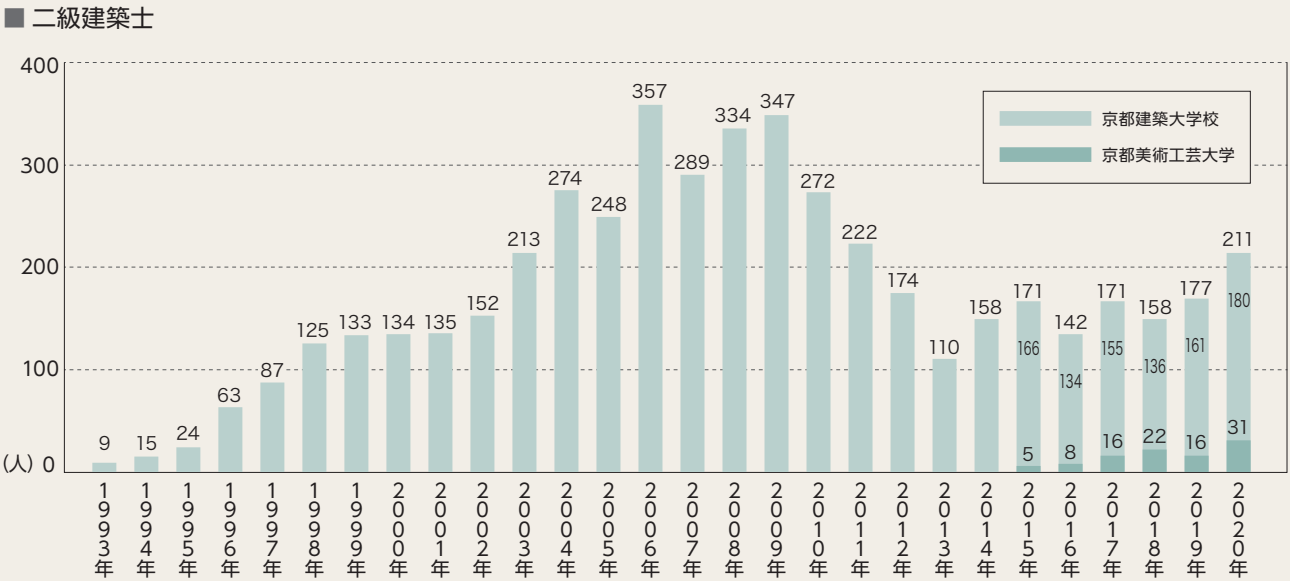
30年間の入学生数推移(3校) ※2021年4月現在



30年間の卒業生数推移(3校) ※2021年4月現在



二級建築士・木造建築士・インテリアプランナー 資格取得者数 ※2021年4月現在



京都建築大学校 歴代校長



相川 三郎

平成 3年4月～
平成14年3月



吉田 晋

平成14年4月～
平成23年3月



小田 晃

平成23年4月～
平成30年3月



廣辻 雅之

平成30年4月～
令和 2年3月



川北 英

令和 2年4月～

京都伝統工芸大学校 歴代校長



相川 三郎

平成 7年4月～
平成15年6月



松村 賢治

平成15年7月～
平成23年3月



新谷 裕久

平成23年4月～
平成27年3月



工藤 良健

平成27年4月～
平成29年3月



新谷 由貴代

平成29年4月～

京都美術工芸大学 歴代学長



宮崎 昭

平成24年4月～
平成26年3月



河野 元昭

平成26年4月～
平成29年3月



冷泉 為人

平成29年4月～
令和 2年3月



新谷 裕久

令和 2年4月～

学校法人 二本松学院 歴代理事

新谷 秀一
頼成 為住
南 良夫
山口 均

大内田日出人
藤川 邦夫
宮崎 昭
藤原 勝紀

相川 三郎
吉田 晋
小田 晃
冷泉 為人

大林 昭
人羅 健次
辻本 泰弘
植田 義雄

松尾 義行
内藤 朋平
藤原 進
廣辻 雅之

岡田 昌稔
新谷 秀子
松村 賢治
川北 英

新谷 裕久
塩川 勝治
北村 雅昭
山田 幸秀

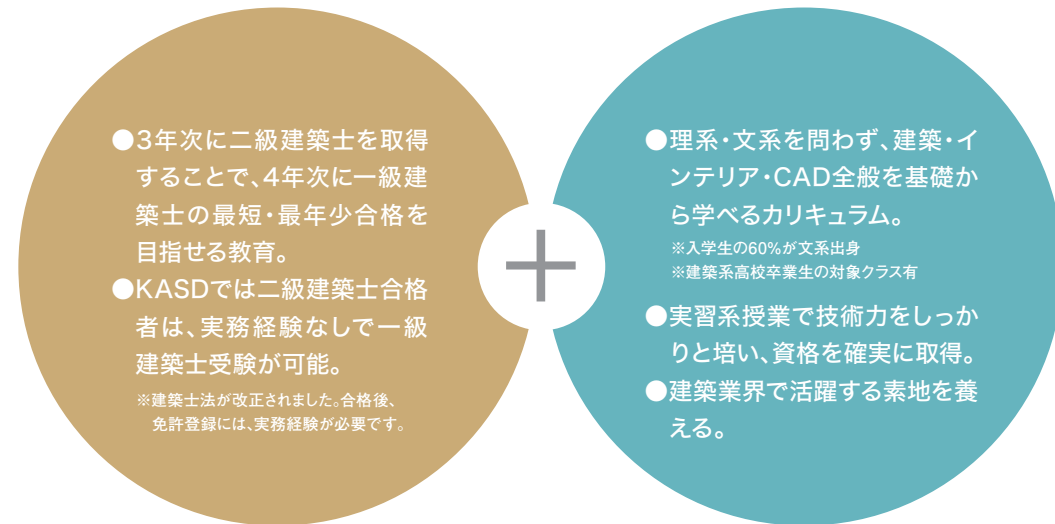
野中一二三
川元 邦親
河野 元昭
井上 正嗣

太字は現在の理事の方です。

KASDなら、在学中に一級建築士合格が目指せます。

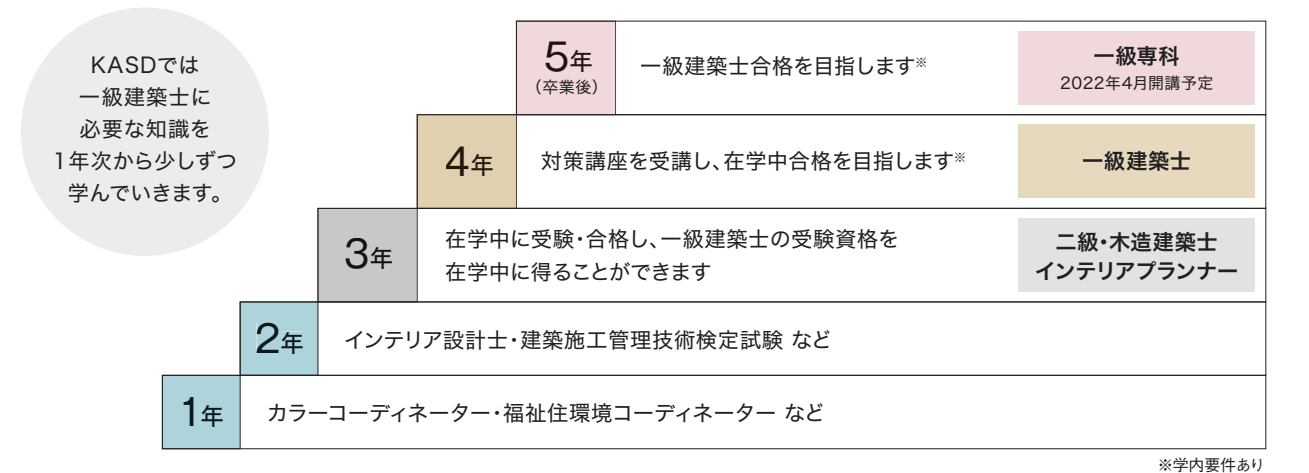
京都建築大学校

新しい大学教育のカタチ：大卒資格取得+建築士資格取得の両立

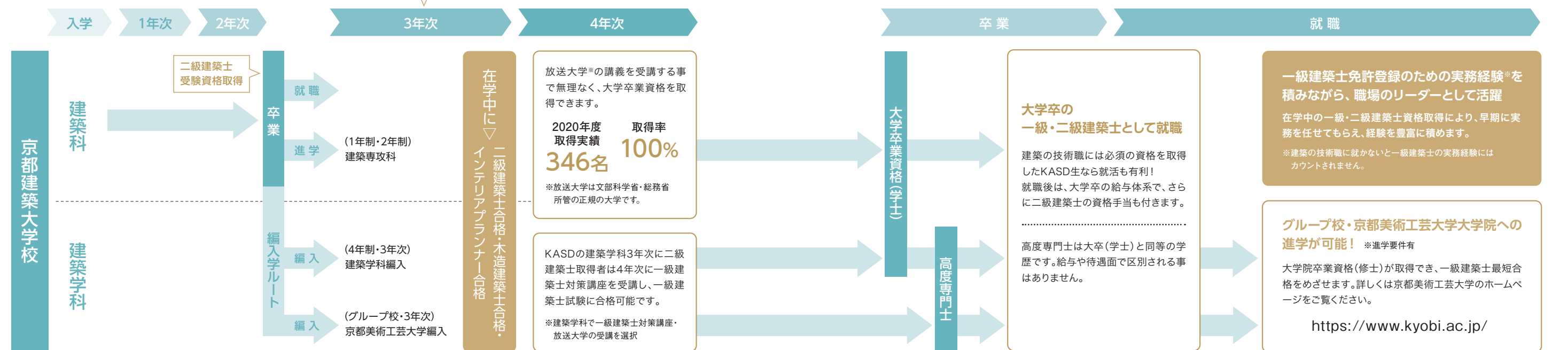


3年次で二級建築士資格取得し、4年次で一級建築士資格に挑戦。

KASDでは1年次から建築やインテリアに関する資格を段階的に取得し、4年次に最高峰資格である一級建築士資格合格へと到達できるよう、学びを重ねていきます。取得する資格のレベルを徐々に高め、3年次で二級建築士資格を取得できた人は、一級建築士受験対策講座が受講可能となり、4年次で一級建築士資格合格を目指すことができます。また、一級建築士資格合格まであともう少しという学生のために卒業後も就職をせずに合格を目指す「一級専科」を園部キャンパスに開講します。



■ 建築士資格取得までの比較



【建築科】

2年制

建築を初めて学ぶ人も安心。 建築・インテリア・CAD全般を習得。

理系・文系を問わず、建築やインテリアを基礎から学ぶカリキュラム。

建築を初めて学ぶ人も安心して勉強できます。

実習系授業が約50%で技術力をしっかりと培い、様々な資格を確実に取得。

建築業界で活躍するための素地を養います。



【資格について】

「一級建築士」受験資格取得（登録要件実務経験4年）

「1級建築施工管理技士」受験資格取得（要実務経験5年）

「専門士」取得 短期大学（短期大学士）と同等

「二級建築士」・「木造建築士」受験資格取得

「2級建築施工管理技士」受験資格取得（要実務経験2年）

【在学中に取得できる資格】

■2級建築施工管理技士補

■2級インテリア設計士

■インテリアコーディネーター

■宅地建物取引士

■福祉住環境コーディネーター

■カラーコーディネーター

■インテリアパース

■建築CAD技能検定

■測量士補 など

京都建築大学校

建築コース 2年次～

目指すは在学中の国家資格取得と
広い分野に対応できる基礎固め。

建築の基礎知識と技術を習得し、建築の幅広い分野に対応できる基礎能力を培います。昨今では現場を指揮する施工管理の仕事の需要が高く、2級建築施工管理技士補の在学中取得を目指します。また、建築専攻科進学後および建築学科3年次編入後は二級・木造建築士を取得し、建築業界で即戦力となる人材を目指します。

インテリアデザインコース 2年次～

インテリア+建築士資格取得で着実にステップアップ。

二級・木造建築士受験に向けた基礎固めは建築コースと同様。さらにインテリアに特化した授業を行うのがこのコースです。インテリアコーディネーターを受験し着実に知識を増やしてから建築専攻科進学後および建築学科3年次編入後に二級・木造建築士、インテリアプランナーを目指す流れで、着実にステップアップしていきます。

一級特進コース 2年次～

建築学科への編入後、一級建築士取得を目指す。

1年次の定期試験の成績や資格取得状況を以って、同コースへ進む学生を選抜します。少人数制で、早い段階から一級建築士取得に向けた対策講座をスタート。一級特進コース選択者が、建築学科へ編入すると、3年次に二級・木造建築士の取得、さらに4年次在学中の一級建築士合格を目指します。

建築専攻科 1年制

「二級・木造建築士」「インテリアプランナー」の
資格取得を、在学中に叶える。

Point 1
試験を知り尽くした
一級建築士の教員が作成する
オリジナル教材と指導。



Point 2
本番さながらの
実習を徹底して繰り返す、
製図試験対策。



建築専攻科 2年制

「二級・木造建築士」や「インテリアプランナー」に
加えて、「大学卒業資格」を取得。

Point 1
「二級・木造建築士」
「インテリアプランナー」を
取得して就職活動ができる。



Point 2
「大学卒業資格」を
取得することで、
大卒者として就職できる。



将来の「一級建築士」を見据えた
カリキュラムで在学中合格を目指す。

講義と実習を通して、建築の高い専門知識を身につけます。

卒業時には、建築系大学と同等の「高度専門士」を取得でき、

一級建築士登録に必要な実務経験が最短の2年で資格登録が可能になります。

さらに、建築系大学院への進学も可能です。



卒業設計制作 研究室(ゼミ)作品

【資格について】

「一級建築士」受験資格取得（登録要件実務経験2年）

「1級建築施工管理技士」受験資格取得（要実務経験3年）

大学卒業資格(学士)取得 ※選択制

「二級建築士」・「木造建築士」受験資格取得

「2級建築施工管理技士」受験資格取得（要実務経験1年）

「高度専門士」取得 大学(学士)と同等

【在学中に取得できる資格】

■インテリアプランナー

■2級建築施工管理技士補

■2級インテリア設計士

■インテリアコーディネーター

■宅地建物取引士

■福祉住環境コーディネーター

■カラーコーディネーター

■インテリアパース

■建築CAD技能検定

■測量士補 など

※建築科からの編入生については、在学中に「二級建築士」・「木造建築士」資格が取得可能。
さらに二級建築士資格取得者は4年次に一級建築士試験が受験可能です。

二級建築士取得後、
在学中に一級建築士の合格を目指す。

建築業界の第一線で活躍するプロの指導で、業界最前線の情報や空気感にふれつつ、一人ひとりの建築観を育成。将来一級建築士として活躍するため、デザインワークや設計演習を通して、実践的な技術を向上させ、感性や創造力も磨きます。二級建築士資格取得のための学びを基盤とし、一級建築士在学中合格に向けた勉強もできます。知識に加え総合的な技術力を高め、将来の一級建築士を見据えたカリキュラムで在学中合格を目指します。

Point
1

一級建築士の国家試験に直結した
受験対策講座を受講できる。



Point
2

一級建築士資格登録に必要な実務経験が
最短の2年になり、
また高度専門士を取得することもできます。



Point
3

グループ校・京都美術工芸大学大学院へ進学可能。
修士(建築)の学位が取得できます。

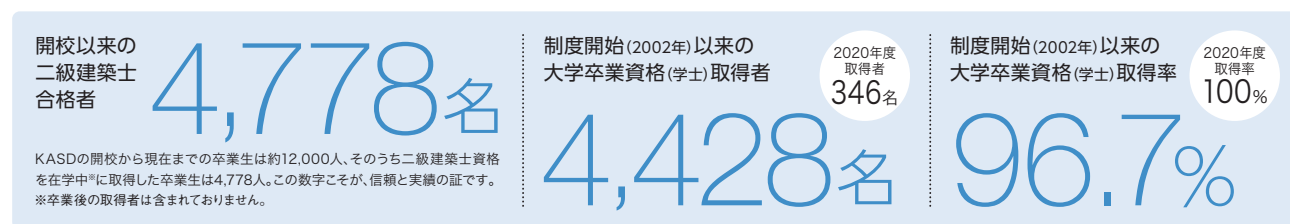


本校を採用指定校とする企業も年々増加。多くの企業が本校内で説明会を開催しています。

二級建築士資格を取得し、学習の証となる資格をたくさん持ち、

入社後の定着率が高いのがKASD生だと、大手や中堅、優良企業から信頼を得ています。

KASD生の資格取得実績



(2020年度)在学中合格者数

一級建築士
学科試験合格者(在学中) **2名**

一級建築士 合格者(卒業生)

41名

※試験合格後、建築学科は2年、建築科は4年の実務経験後、登録可能。※建築系大学を卒業しても「一級建築士」登録には実務経験が必要です。

「一級建築士」試験学校別合格者数一覧
(一部抜粋) (2020年度実績)

1	日本大学 162名
2	東京理科大学 141名
3	芝浦工業大学 119名
22	京都建築大学校 41名 ※
22	東京電機大学 41名
24	広島大学 38名
24	東北大学 38名

全国の学校別
合格者数(10名以上)
ランキング
国公立大学を含む
79校中22位!

※KASDの合格者は「二級建築士」取得を受験資格とした者18名、「学歴」を受験資格とした者23名の合計数になります。

建築士
合格者 **316名**

※卒業後の取得者は含まれておりません。

二級建築士合格者 **180名**

（京都府の合格者の66%が本校生）

その他 91名 KASD 180名

木造建築士合格者 **136名**

（全国の合格者の56%が本校生）

その他 107名 KASD 136名

他大学では在学中に登録できません。

インテリアプランナー
総合合格者 **23名**

うち女性 14名

（全国の学生合格者の71%が本校生）

その他 9名 KASD 23名

アソシエイト・
インテリアプランナー **191名**

うち女性 68名

※学科試験合格後、登録することにより称号が得られます。

2級建築施工管理技術検定試験
合格者(学科)

246名

うち女性 66名

近畿の合格者の35%が本校生

2021年度、建築施工管理技士の試験制度が変更。
新たに「建築施工管理技士補」の称号が誕生。

建築施工管理技術検定試験は、従来では「学科試験」と「実地試験」の両方に合格して初めて「施工管理技士」の称号が与えられるものでした。しかし、建設業法の改正で、「学科試験」に代わる「第一次検定」に合格することで、「施工管理技士補」の称号が得られることとなりました。この称号があると、建設現場の監理技術者の補佐をすることができます。

2級インテリア設計士
合格者

253名

うち女性 89名

全国の合格者の53%が本校生

福祉住環境コーディネーター
合格者

301名

うち女性 101名

医療・福祉に関わることができる!

建築CAD技能検定
合格者

855名

うち女性 235名

インテリアパース
合格者

529名

うち女性 140名

測量士補
合格者

11名

うち女性 4名

宅地建物取引士
合格者

5名

うち女性 1名

幅広い活躍のフィールドで
センスと技術を発揮できます。

2020年度
正社員就職率 **99.6%**

過去10年間の平均
正社員就職率 **98.7%**

ハウスメーカー



自社製品の設計・開発など、建築士としての知識や技術を活かせる仕事です。

- 大和ハウス工業(株)
- 積水ハウス(株)
- 住友林業(株)
- パナソニックホームズ(株)
- ミサワホームグループ
- 三井ホームグループ
- セキスイハイムグループ
- トヨタホームグループ
- (株)日本ハウスホールディングス
- 住友不動産(株)
- (株)一条工務店
- (株)ヤマダホームズ
- (株)アキュラホーム
- その他多数

総合建設(ゼネコン)・ 工務店



多くの企業が参画する建築プロジェクトにおいて、主導的な立場で企画・設計・施工管理を行います。

- 大成建設(株)
- 清水建設(株)
- 鹿島建設(株)
- (株)安藤・間
- (株)熊谷組
- 高松建設(株)
- 大鉄工業(株)
- 鉄建建設(株)
- (株)浅沼組
- (株)ナカノフドー建設
- 大東建託(株)
- 東建コーポレーション(株)
- スターツCAM(株)
- (株)ジェイアール西日本ビルト
- (株)銭高組
- (株)松村組
- 北野建設(株)
- その他多数

官公庁・公共機関



国や地方自治体が管理・運営する施設、土木関係、都市計画など、住民生活を支える公共的な業務を行います。

- 京都府庁
- 滋賀県庁
- 奈良県庁
- 鳥取県庁
- 宮崎県庁
- 京都市役所
- 茨木市役所(大阪)
- 和泉市役所(大阪)
- 神戸市役所(兵庫)
- 尼崎市役所(兵庫)
- 大津市役所(滋賀)
- 彦根市役所(滋賀)
- 奈良市役所
- 富士宮市役所(静岡)
- 安芸市役所(高知)
- (公財)国立京都国際会館
- 国立大阪大学
- その他多数

設計事務所



建物だけでなく広場や街路など、事務所によってデザイン・設計するものは様々です。

- (株)内藤建築事務所
- (株)中村設計
- (株)日比野設計
- (株)現代総合設計
- (株)池下設計
- さくら構造(株)
- 平田建築設計(株)
- (株)アル・パートナーズ建築設計
- (株)ユニバサール設計
- 浅井謙建築研究所(株)
- 楽総合計画(株)
- (株)創間設計事務所
- (株)浦野設計
- (株)アトリエ創建築設計
- (株)豊建築事務所
- (株)ティ・ティ・アール設計
- その他多数

インテリア・空間設計 ディスプレイ・リフォーム



インテリア空間の設計や、家具、照明、調度類などのあらゆる要素をコーディネートする仕事です。

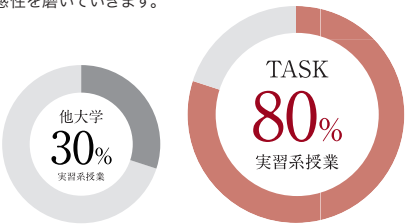
- (株)乃村工藝社
- (株)船場
- (株)ラックランド
- (株)J.フロント建築
- 高島屋スペースクリエイツ(株)
- (株)丹青社
- (株)彩ユニオン
- (株)アディスミューズ
- ジーク(株)大阪店
- 住友林業ホームテック(株)
- 大和ハウスリフォーム(株)
- パナソニックリフォーム(株)
- セキスイデザインワークス(株)
- 住友不動産シスコン(株)
- その他多数

10専攻2コースから、学びたい工芸と進みたいコースを選ぶ。

TASKなら自分の将来を見据えて希望する学びが選択できます。まずは10専攻の中から身につけたい工芸を選び、次に「その技を究めるプロ」をめざすのか(工芸コース)、「その技を生かすクリエイター」をめざすのか(工芸クリエイターコース、希望の進路(コース)を選択することができます。それぞれのコースで、実習を中心とした実践的な教育を確立し、実社会で活躍できる人材を育成しています。

手を動かすことで学び、覚える。
全授業の80%が実習・演習。

専門的な知識や理論は、実践に生かすことではじめて意味をもちます。TASKの学びの基本は実際に手を動かすことです。カリキュラム全体の50%は専門実習で、デザイン・演習科目を含めると実に約80%が実習・演習系の授業です。学生たちは常に課題に取り組み、一流の工芸士たちから指導を受け、腕と感性を磨いていきます。



工芸コース

京都でしか学べない最高峰の技術を継承し、工芸・ものづくりのプロをめざします。

特徴1

基礎から高度な技術まで習得できるカリキュラムで、各専攻にて何段階にも分けた課題を設定。個人の能力に合わせて課題をクリアしていくため、着実にプロの技術を習得できます。

特徴2

「将来は作家として活躍したい」「工房に就職して職人として力を発揮したい」といったように、一人ひとりの目的に合わせて、修業年限を選択することができます。

特徴3

伝統工芸から現代的なデザインまで幅広い学びを習得できるからこそ、伝統工芸の技を究めることも、伝統に発想をプラスして、新たなものづくりを発信することもできます。

工芸クリエイターコース

工芸技術に加え、デザインやプロデュースを専門的に学び、次代の作家・工芸士・クリエイターをめざします。

特徴1

デザインする、作る、価格を設定する、そして売る、という独立作家活動のための一連の流れや経験、ノウハウを把握し身につけるとともに、『自己プロデュース力』を磨きます。

特徴2

学外のコンペや公募展に積極的にチャレンジするなど、自分の感性と培った技術で作った作品を発信し、経験を積みみます。

特徴3

産官学連携事業として実施している企業や自治体との共同プロジェクトなどに優先的に参加でき、商品化やプロモーションなど、将来確実に役立つ実践力が身につきます。

国・京都府・伝統工芸産業界が支援するTASKだから実現できた講師陣。

現代の名工

卓越した技能を持ち、他の技能者の模範となる者

1名

伝統工芸士

伝統工芸品の高度な技術・技法・知識を持つ者

31名

京の名工

多年にわたり伝統産業に従事し、その振興と発展を支えてきた技術者

18名

若手講師が技術習得や学生生活をきめ細かくフォロー。

TASKでは各専攻に業界で活躍する若手講師を配置しています。名工や匠からの高度な技術指導に対し、よりわかりやすくフォローしており、一人ひとりの技術習得を確実なものにできるようしっかりサポートしています。

代表的な講師陣 (順不同)

陶芸専攻

長田 大

伝統工芸士

木彫刻専攻

渡邊 宗男

伝統工芸士・京の名工

山本 孝子

伝統工芸士

田尾 仁美

伝統工芸士

仏像彫刻専攻

齋藤 澄観

伝統工芸士

木工芸専攻

村山 明

重要無形文化財保持者 (人間国宝)

森 久杜志

伝統工芸士

漆工芸専攻

大家 忠弘

伝統工芸士・京の名工

古今 祥之

伝統工芸士・京の名工

狭間 實

伝統工芸士・京の名工

兼松 俊明

伝統工芸士・京の名工

番浦 肇

伝統工芸士

長屋 綾乃

伝統工芸士

蒔絵専攻

平城 繁雄

伝統工芸士

金属工芸専攻

中村 佳永

京の名工

中村 光男

京の名工

竹工芸専攻

石田 正一

現代の名工・京の名工
2021年 黄綬褒章受章

三島 一郎

京の名工

井上 定信

京の名工

京手描友禅専攻

荒木 泰博

伝統工芸士

木戸 源生

伝統工芸士・京の名工

駒井 達夫

伝統工芸士

市川 完一

伝統工芸士・京の名工

森 光男

伝統工芸士・京の名工

橋爪 良和

伝統工芸士

福本 義孝

伝統工芸士

南條 隆

伝統工芸士・京の名工

吉住 泰造

伝統工芸士

木村 敏

伝統工芸士

志賀 豊

伝統工芸士・京の名工

10専攻	2コース	1年次	基礎Ⅰ	2年次	基礎Ⅱ	3年次	応用Ⅰ	4年次	応用Ⅱ		
漆工芸専攻	ハイレベルな 工芸技術を習得 工芸コース	取得可能な 学位・称号・資格		専門士 工芸士3級		専門士		高度専門士 学士(大学卒業資格) 大学院入学資格		▶卒業 ▶大学院進学	
蒔絵専攻		4年制 (高度専門課程)				修了制作		卒業制作			
陶芸専攻		3年制 (専門課程)				卒業制作	▶卒業 ▶高度専門課程編入				
木彫刻専攻		2年制 (専門課程)				▶3年制課程編入 ▶グループ校 京都美術工芸大学[美術工芸学科] 3年次編入(編入試験あり) ▶終了					
仏像彫刻専攻											
木工芸専攻	工芸技術とデザイン の融合を重視 工芸クリエイター コース	取得可能な 学位・称号・資格		工芸士3級		海外交流 (3・4年次) 海外提携校との海外交流に参加できる チャンスがあります。		展 示 会 (3・4年次) 国内はもとより、イタリアやフランスの国際的な展示会へ 優先的に自分の作品を出展できるチャンスがあります。		▶卒業 ▶大学院進学	
金属工芸専攻		4年制 (高度専門課程)				修了制作		卒業制作			
竹工芸専攻											
京手描友禅専攻											
和紙工芸専攻											

資格取得

技術+大学卒業資格が取得できる。

高度な工芸スキルの習得とともに、TASKのカリキュラムに放送大学の科目を組み込み、4年間で大学卒業資格を取得できる独自のシステムを用意しています。就職活動時には“大卒”見込みとしてアピールできます。

大学卒業資格(学士)取得率

100%

(4年間で取得率・過去3カ年)

338名

制度開始(2004年)以来の大学卒業資格(学士)取得者

教員免許取得の道も拓けます。

TASKの4年制(高度専門課程)を卒業すると、他大学の大学院進学も可能です。教員免許取得希望者は、国立鳴門教育大学大学院に進学し、3年間学ぶことで教員免許を取得することもでき、教員免許の中でも最高位の専修免許の取得をめざせます。 ※専修免許とは、法律上、教頭や校長になるために必要な免許です。

大学卒業資格取得率
100%を実現する
TASK独自のシステム

大学の講義はカリキュラムに含まれており、無理なくすべて学内で受講できます。

放送大学教養学部の中でも芸術に関連の深い「人間と文化コース」を専攻し学びます。

専門のチューターがサポートします。

大学卒業資格を取得するための放送大学(国立)の授業には、チューターがついて、学びをきめ細かにサポート。毎年100%の取得率を実現しています。

就職サポート

2020年度就職率

93.8%

※就職率は、2020年度(2021年3月)卒業生の就職活動者のみ(独立・進学除く)を対象としたデータです。

就職・インターンシップ

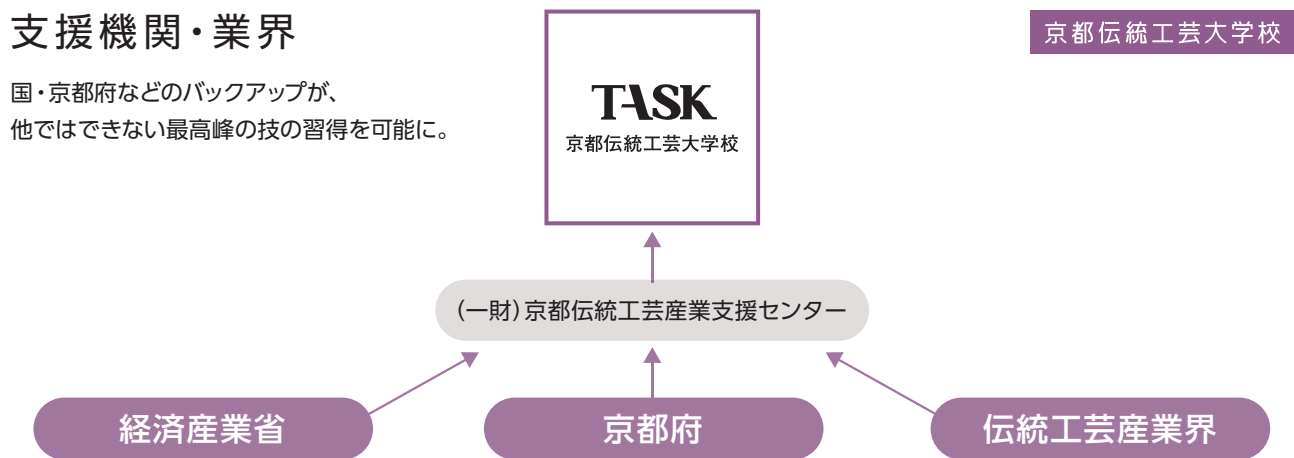
越前漆器の産地である福井県鯖江市と包括的連携協定を締結。

2015年4月、本学院は福井県鯖江市、鯖江商工会議所と包括的連携協定を締結。学生の即戦力となる学びから、越前漆器産地「うるしの里」の後継者育成や産地振興につなげていくことがねらいです。



支援機関・業界

国・京都府などのバックアップが、他ではできない最高峰の技の習得を可能に。



「産・官・学」が連携して、他ではできない“本物の技”の指導を実現。



近畿経済産業局長
米村 猛

伝統的工芸品が次の世代にも受け継がれるよう支援します。

京都伝統工芸大学校は、開校以来、日本の伝統工芸の技術を学びたい方に広く開かれた国内唯一の伝統工芸に関する教育機関として、優れた人材を数多く輩出し、伝統工芸産業界からも厚い信頼を得てられました。近年では、伝統工芸を通じて世界と交流する活動を積極的に行っておられ、若い感性の息吹が吹き込まれた伝統的工芸品の魅力は無限に広がっています。近畿経済産業局としても、高度な技術と豊かな感性から生まれる伝統的工芸品が次の世代にも受け継がれていくよう、伝統的工芸品産業の振興に全力で支援してまいります。貴校で確かな技術を受け継がれた卒業生が、各方面で活躍され、関係業界の発展に貢献されることを大いに期待しております。



京都府知事
西脇 隆俊

京都の財産である伝統産業の次代を担う若手職人を応援します。

京都伝統工芸大学校は、京都の伝統工芸業界を代表し、最高峰の技術を有する名工の皆様から直接技術指導を受けられる教育機関として、1995年の開校以来、数多くの優れた人材を輩出してこられました。また近年では、地域や企業とのコラボレーション企画を展開されるとともに、ヨーロッパの工芸団体との連携も深められ、日本の「ものづくり」振興のため、世界的規模での活動も進めておられます。今後とも、貴校で「匠の技」を受け継がれた卒業生が、次代の伝統工芸業界を担う若きリーダーとして活躍されることを期待するとともに、京都府としても、貴校とともに次代を担う若手職人への支援や伝統産業の新たな展開に資する取り組みを進めてまいります。



一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会
代表理事
彦根仏壇事業協同組合 理事長
宮川 孝昭

世界に誇る伝統的な工芸技術を後世に引き継ぐ、大変意義ある学校です。

経済産業大臣の指定を受けた伝統的工芸品は現在235品目を数え、全国各地で高度な技術、技法により作られています。これらの工芸品は我が国のものづくり産業の中で、日本らしさを象徴する存在として若年層や海外からも評価され、伝統的工芸品を求め、産地に足を運ぶ観光客も増えています。しかしながら、暮らし方の変化による需要の減少、原材料や用具の入手難など課題は多く、中でも技術・技法を継承する後継者の確保難は深刻です。このような状況の中で、京都伝統工芸大学校の修了者は、全国各地の工芸品産地にて技術後継者として活躍されておりますことから、伝統的工芸品産業界から貴校への期待は大きく、引き続き、確かな技術力を備えた人材を輩出していただくことを切に願います。

京都の伝統工芸業界が京都伝統工芸大学校を全面的にバックアップ。

京仏壇・京仏具 ■ 京都府仏具協同組合 理事長 ■ (株)田中伊雅 代表取締役	田中 雅一	竹工芸 ■ 京都竹工芸品協同組合 理事長 ■ 西河(株) 代表取締役	西河 雄一	京焼・清水焼 ■ 京都陶磁器協同組合連合会 代表理事	山本 昌弘	京指物 ■ 京都木工芸協同組合 理事長 ■ 井口木工所 代表	井口 彰夫
京漆器 ■ 京都漆器工芸協同組合 理事長	兼松 俊明	京石工芸 ■ 京都府石材業協同組合 理事長 ■ (株)澤吉 代表	澤田 明廣	金属工芸 ■ 京都金属工芸協同組合 理事長 ■ (有)合場金属 代表	合場 頼正	竹材・竹工芸 ■ 京都竹材商業協同組合 理事長 ■ (株)御池	御池 寅男
黒谷和紙 ■ 黒谷和紙協同組合 理事長	林 伸次	京扇子・京うちわ ■ 京都扇子団扇商工協同組合 理事長 ■ (株)阿似波 代表取締役	饗庭 智之	京人形 ■ 京人形商工業協同組合 理事長	田中 義高	京手描友禅 ■ 京都手描友禅協同組合 理事長	荒木 泰博

※2021年3月時点

京都伝統工芸大学校の設立の経緯と沿革

1992年、国は「伝産法※」を改正し、伝統工芸産業の後継者を育成する支援を計画。国と京都府、伝統工芸産業界が一体となり、第三セクター(一財)京都伝統工芸産業支援センターを設立しました。後継者育成のための学校設立を検討し募集をかけ、協力に応じようと名乗りを上げたのが二本松学院です。そして、前述の(一財)京都伝統工芸産業支援センターによる全面的な支援を受けて「京都伝統工芸大学校」は誕生しました。しかし、伝統工芸の技と言うと、厳しい徒弟制度や世襲によって伝えられることが通念であり、伝統工芸の教育法も存在していません。その成果は誰も半信半疑のスタートでした。軌道に乗るにつれ、若く新しい人材の輩出、各工芸同士の交流やコラボレーションなど、新しい潮流が生み出されました。「産・官・学」の連携により全国でも唯一の卓越した技術力に、伝統を継承するだけに留まらず、新たな未来の可能性を広げています。伝統工芸を教育体系化し、技術力・創造性の豊かな人材を生み出すという、他のどんな団体も実現し得なかったことを、京都伝統工芸大学校は実現することができたのです。

※正式名称「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」

TASKが技術習得の他にも力を入れているのが、産官学が連携して行う実践的なプロジェクトです。
寺院からの依頼を受けて仏像を納めたり、学生たちの作品を学外で展示するなど、
毎年、さまざまなプロジェクト活動を実施。学生たちのやる気を引き出し、腕を磨く場となっています。

産官学連携のプロジェクトに積極的に参加。 学びを実践の場で磨いています。

「今年の漢字」和紙制作プロジェクト

毎年、年末に清水寺で発表される「今年の漢字」。25年目を迎えた2019年、公益財団法人日本漢字能力検定協会から京都の手漉き和紙を使いたいとお声がけいただき、TASKの和紙工芸専攻がその制作を任せられました。授業で制作している和紙と比べ6～8倍と、全く経験のない大きさに学生たちも制作できるのか心配そうでしたが、講師の指導の下、無事完成し納めることができました。



穴窯プロジェクト

陶芸専攻の学生と教員によって、約1年間かけて、全国でも稀少な本格的穴窯を制作しました。これにより在学中に穴窯で焼成を学ぶことができ、将来に役立つ技術や知識が身につけられます。



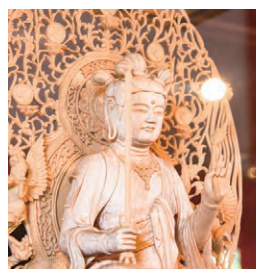
みょうけんじ 妙顯寺作品展

京都市上京区にある古刹、妙顯寺の秋の特別公開に合わせ、客殿にて京都伝統工芸大学校の「第3回妙顯寺作品展」を開催しました。今回は学生作品12点を展示。夜間のライトアップ期間中でもあり、多くの来場者を魅了しました。



清水寺作品展

世界遺産・清水寺の「出世大黒天像」の修復をTASKが依頼され行ったことをご縁として、2009年より清水寺の経堂(重要文化財)をお借りして、TASKの作品展を毎年開催。期間中には5,000人を超える方々にご来場いただいています。12回目の開催となる今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、厳選された優秀作品6点と和紙工芸専攻の学生たちによって制作された青菊の合計7点を展示しました。



「京都大河ドラマ館」に卒業生の作品が登場

2020年2月、亀岡市に完成したサンガスタジアムby KYOCERA。その中に設けられた「麒麟がくる 京都大河ドラマ館」に本校の卒業生である浜家美貴さん(木彫刻専攻/2016年卒業)の卒業作品「雲上麒麟」が展示されました。本学院の京都伝統工芸館に展示していたものが関係者の目にとまって実現したもので、開催期間中多くの方を躍動感あふれる姿でお迎えしました。



龍顔寺・薬師如来プロジェクト

「緊急SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦」というテレビ番組からスタートしたプロジェクト。長野県上田市「龍顔寺」にある「不動の池」から豪雨で池に崩落した樹齢300年のご霊木を用いて、薬師如来三尊像を共同制作し、同寺に奉納しました。



ひいらぎや 柊家プロジェクト

2018年にスタートした柊家プロジェクト。200年もの歴史を持つ京都の老舗旅館に伝統工芸を活用したグッズやアイデアを提案。2019年には数ヶ月かけて制作したさまざまな試作品をプレゼンテーションしました。2021年春、約3年の歳月を経て制作されたアイテム6種類50品が納品されました。



KIMONOプロジェクト

各国の文化・歴史・自然をテーマにした着物を制作し、世界をひとつにしようとする一般社団法人イマジンワンワールドの「KIMONOプロジェクト」。TASKの京手描友禅専攻は全国で唯一、学校としてこのプロジェクトに参加。セルビア共和国をイメージした着物を制作。同国が出場した女子ハンドボール世界選手権大会で披露しました。



起きあがりこぼし京都展2019

日本を代表するデザイナー高田賢三氏が震災復興の願いを込めて発案し、2013年にスタートしたプロジェクト。福島県会津地方に伝わる郷土玩具「起きあがりこぼし」に日本とつながりのある世界中の方々、世界で活躍する日本人が復興を願って絵付けをしました。今回の京都展では全部で300点もの作品が展示され、TASKの学生も約30点の作品を制作しました。



くるまざき ちょうようさい 車折神社「重陽祭」で青菊奉納

車折神社から依頼を受けて「重陽祭で奉納する青色の菊」を本校和紙工芸専攻の学生4名が制作しました。青菊には、コロナ治療の最前線で苦勞されている医療現場の安寧を祈るという意味も込められています。青菊は花芯、花びら、葉、がくなどのパーツを全て本校で漉いた和紙を使って手作りで制作しました。



これからの伝統工芸には、世界規模で物事を捉える広い視野が必要です。また世界の文化に触れることで、日本文化を再認識することができます。TASKではより豊かな感性と国際感覚を育むことを目的に、フランスをはじめ、各国の学校・団体との国際交流を積極的に推進しています。

世界の文化に触れ、
感性を高めて、視野を広げる。

FRANCE【フランス】

エコール・カモンドと連携、交換留学を実施。

フランスのプロダクト・インテリアデザインの学校「エコール・カモンド」。TASKを含む二本松学院は2019年に同校と連携協定を締結。文化交流を目的とした交換留学を実施しています。

PARIS to KYOTO

エコール・カモンドの学生がTASKに短期留学。茶道や伝統工芸を体験しました。竹工芸・金属工芸を体験した学生たちは、日本のものづくりに感心し、この体験を今後の勉強につなげたいと決意を新たにしていました。



KYOTO to PARIS

TASKの学生がエコール・カモンドに短期留学。日仏の混在のチームを結成して、それぞれの学びを生かしたワークショップを実施。また工房や美術館見学などにも出かけ、楽しみながら刺激のある時間を過ごしました。



フランス最高峰の
「エコール・ブール国立工芸学校」と連携。
海外交流、合同作品展と夢は広がる。

本学院の高い技術力と教育方針に共感されたフランス最高峰の「エコール・ブール国立工芸学校」より、技術交流の申し出をいただきました。それを受け、2011年10月、京都府知事の立ち会いのもと、フランスの工芸振興組合「アトリエ・アール・ド・フランス」とともに連携協定を締結しました。



短期留学で文化交流。互いに刺激し合い
高め合う貴重な体験。

エコール・ブール国立工芸学校との交換留学も実施。フランスに1ヶ月滞在する短期留学では、現地の陶芸工房見学などを通して最高峰のものづくりに触れるなど、実り多い時間を過ごしました。またエコール・ブール国立工芸学校の学生もTASKへ来校。陶芸や竹工芸、漆工芸、木彫刻、そして紙漉きや書道なども体験し、作品も制作。TASK生と京都市内観光に赴き、親交を深めました。2021年からエコール・ブールが大学になるのを機に、新たなステージで交流を再スタートする予定です。

ヴァンクリーフ&アーペル
「オリジナル作品制作のための奨学金」設立。

フランスの高級ブランド“ヴァンクリーフ&アーペル”が設立した伝統工芸の技と知識の発展と次世代の職人・クリエイター支援を目的とした奨学金制度です。優れた卒業制作企画を考案した学生を対象に、卒業制作資金の補助となるよう奨励奨学金が支給（贈与）されます。



ITARY【イタリア】

毎年実施する海外研修で、
洗練された欧州文化を肌で感じる。

毎年、希望者によるイタリアへの海外研修を実施しています。デザインの本場、イタリアの空気に肌で触れ、その造形美を実感することをメインテーマに、ローマやミラノ、ヴェネチア、フィレンツェなどの文化遺産の見学、ヴァイオリン工房や銀細工、陶芸工房など、通常ではなかなか見られないイタリアの工芸品の工房見学などを行い、学生の視野や創造の幅を広げる機会としています。

「アルティジャーナル展」で本校生作品が名誉ある賞を受賞！
イタリア・ミラノ近郊のモンツァ市市民博物館で開催された室内装飾の展示会である「アルティジャーナル展」に、卒業・修了制作展で選ばれたイタリア出展作品28点が展示され、本校生作品の中から3作品がモンツァ市文化部長賞をはじめとする名誉ある賞を受賞しました。



「ミラノサローネ」に学生作品が招待作品として出展。

イタリア・ミラノで開催される国際的に有名な家具見本市「ミラノサローネ」に、イタリアの4大学の作品とともに、急遽招待作品として出展。世界中から約30万人が訪れる世界最大級の家具見本市において、本校生作品24点が展示されました。



「LODI陶器コンクール」に学生作品5点を出品。

ローディー市のサンクリストフォロ教会で行われた「第11回LODI陶器コンクール」に、本校生の作品5点を出品。大皿（料理用）をテーマに、本校生作品が高く評価されました。



BHUTAN【ブータン】

国王夫妻が本学院の付属施設「京都伝統工芸館」を来訪。

2011年、日本中の話題を集めたブータン国王夫妻の来日。国賓である国王夫妻が多忙を極める中、本学院の付属施設である「京都伝統工芸館」へご来館。本校生による陶芸や竹工芸、蒔絵などの制作実演を熱心に見学され、仏像彫刻には特に深い興味を示されました。その技術に感嘆された国王より、ぜひ技術交流を深めていきたいと話されたことをきっかけに、留学生を受け入れており、伝統工芸の技術協力を行っています。



ブータン国王夫妻による
大日如来坐像へのノミ入れ

ブータン国王へ仏像を寄贈

仏像彫刻専攻の学生や講師が東日本大震災で被災した岩手県陸前高田の松を使用して「聖観音菩薩像」を制作し、2013年、ブータン国王へと手渡されました。

ブータンからの留学生を受け入れ

2012年、国王の人選による2名が留学生として来日。約2年間、伝統工芸を学びました。そして2015年に再来日し、技と知識をより一層深めました。2016年にはさらに2名の留学生を受け入れています。

AMERICA【アメリカ】

アメリカ・シアトルで学ぶ「夏休み短期留学」奨学生

将来、日本国内だけでなく海外でも活躍する伝統工芸士の育成を支援するため、本校学生を対象にした夏季米国ワシントン州シアトルでの短期留学を行う予定です。現地では、ホームステイをしながら、シアトルアートフェア、シアトル美術館、日本庭園、University of Washingtonなど地元の美術文化団体やイベント見学を行います。また、専攻する伝統工芸の実演を行い、日本の技を世界に紹介する機会もあります。

主催:Five Senses Foundation
協賛:ワシントン州京都人会、京都府

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で留学は実現できませんでしたが、シアトル大学(アメリカ)の嘉住先生に来校いただきました。



KYOBiの学び

KYOBiは、建築からインテリア、そして多岐にわたる美術工芸分野の創造性を学ぶ実学の大学です。その基本となるのは、京都に息づく「ものづくり」の精神です。さまざまな「ものづくり」を追求するために、伝統に裏打ちされた先人の知恵は欠かせません。KYOBiでは、歴史的建造物や貴重な文化財だけでなく、京都に芽ばえた新しい文化も学びの基本に据えています。さらに、他大学では在学中に取得できない「二級建築士・木造建築士」や「インテリアプランナー」など、多様な資格を在学中に取得できる体制も整えています。

京都美術工芸大学

5つのポイント

Point
1

京都の真ん中で“日本”を学ぶ

京都東山キャンパスの近隣には、京都国立博物館や三十三間堂など文化的価値の高い建築物、美術工芸品が数多く点在しています。KYOBiの学びの根底には、日本の伝統文化がしっかりと息づいています。



Point
2

ひとつだけではなく多くの視点を、複眼で見つける美の世界

建築と美術工芸。KYOBiの学びの最大の特徴は、さまざまなクリエイティブ領域を融合させて学べることです。複数の領域にまたがって学ぶことで、ものづくりの発想・視野が大きく広がります。



Point
3

描く力は、つくるチカラ

クリエイティブの基本は優れたデッサン力です。豊かな感性や発想力、アイデアを具現化するアートとアーキテクトのスキル。そんな力を磨ける学びがKYOBiにはあります。



Point
4

プロの資格を在学中に

グループ校の「京都建築大学校(KASD)」とのWスクールシステムにより、他大学では在学中に取得できない「二級建築士・木造建築士」資格が在学中に取得可能です。

Wスクールに必要な授業料全額160万円を奨学金として全額給付(返還不要)



Point
5

ギャラリーのあるキャンパス

大学内のギャラリーで作品展示を行うことで自身を発信します。作品の企画、制作、展示や販売までを自分でプロデュースし、社会とつながる「ものづくり」を在学中から学ぶことができます。

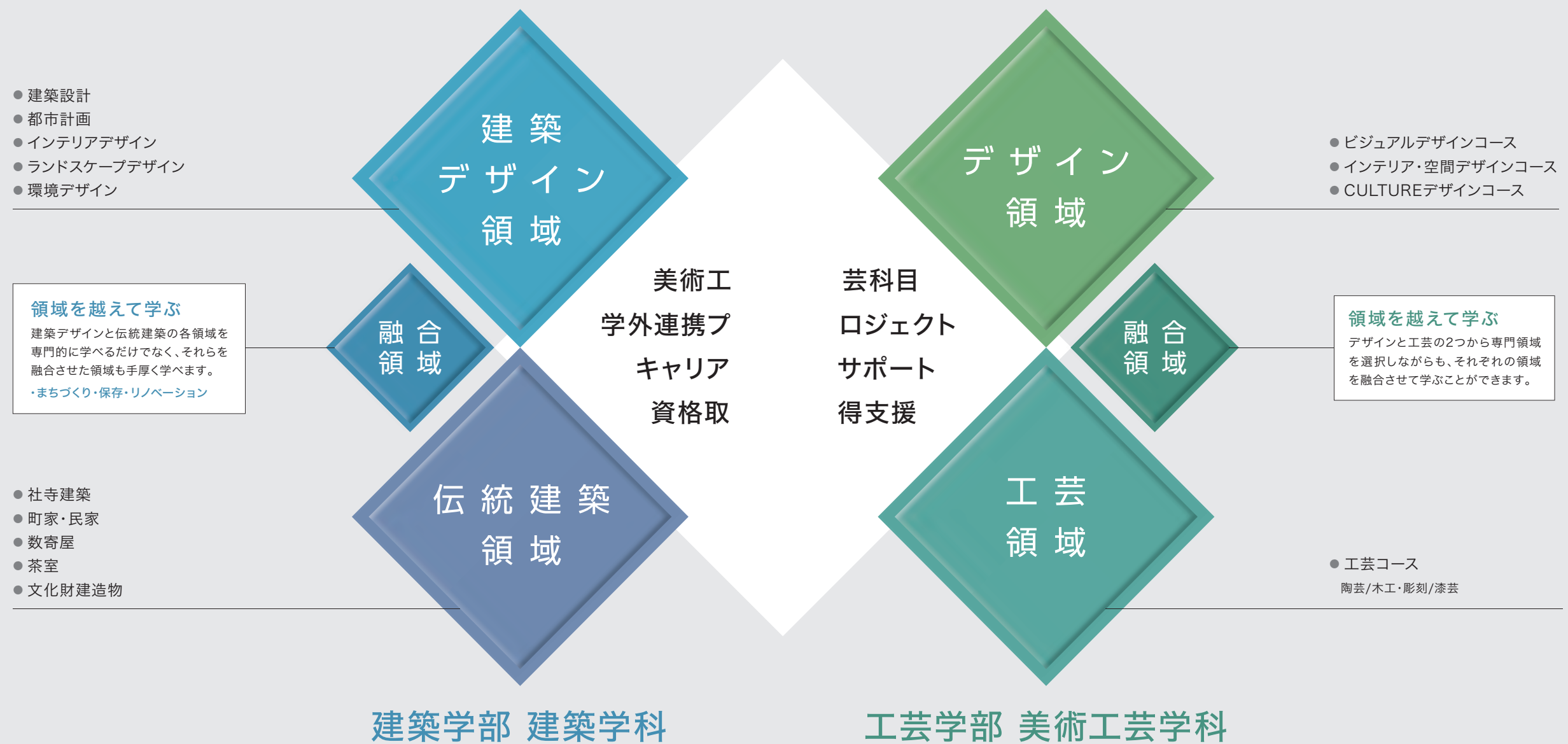


建築学部※・工芸学部の2学部2学科として、
KYOBIは新たにスタートします。それぞれの長所を活かした
学びをさらに促進させ、学生一人ひとりの個性を伸ばします。

※2022年4月開設

KYOBIの学びの最大の特徴は、一つの専門分野だけでなく、さまざまな領域を融合
させて学ぶことができる点です。複数の領域を学ぶことが、新たな発想につながる
と考えています。学年が上がることに志望分野を絞り込んでいき、各々の分野で社
会に貢献できるような専門的知識を身につけます。

京都美術工芸大学



建築デザイン領域



KYOBIの建築学科では、工学分野と美術分野両方の学びのバランスを重視しています。建築に関する多様な知識と美術的な構成員力を備えることで、人の感性により深く訴えかける魅力的な建築デザインを学びます。

伝統建築領域



京都という歴史的にも最高の環境の中で、伝統建築に関わる知識や技術を一から学ぶことができます。価値ある建築物の保存や修復、町家・民家の再生やリノベーションなどを学びます。

在学中に取得可能な主な資格 ●二級建築士 ●木造建築士 ●インテリアプランナー

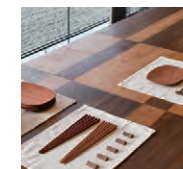
2020年度在学中合格者数 ●二級建築士 31名(学科試験72名) ●木造建築士 47名(学科試験76名)

デザイン領域



都市や産業の未来を切り拓くための課題を発見し、創造的なアイデアをもって具現化まで導く人を育みます。柔軟な発想力、コミュニケーション力、多様な表現力、フィニッシュワーク力という4つの力を伸ばす総合的なデザイン教育を行います。

工芸領域



陶芸、木工・彫刻、漆芸の各分野について創作を通して基礎から技術を身につけると共に、新しい価値を生み出すためのデザイン力を磨き、さらに作品を市場に提案するプロデュース力も合わせて身につけることができます。

在学中に取得可能な主な資格・検定 ●二級建築士 ●木造建築士 ●インテリアプランナー ●Photoshop®クリエイター能力認定試験 ●Illustrator®クリエイター能力認定試験

2020年度在学中合格者数 ●インテリアプランナー 3名 ●アソシエイト・インテリアプランナー 82名

2020年4月に新たに大学院を開設。大学院では高度な専門カリキュラムにより、
建築と美術工芸、現代建築と伝統建築の融合や京都に根ざした個性的な研究を深めながら、
最難関資格である一級建築士資格の在学中最短合格をめざします。

歴史都市「京都」に根差しつつ、現代社会に対応する グローバルな視野を備えた個性豊かな研究を実践。

2020年4月に新たに開設した大学院では、歴史都市「京都」で建築と美術工芸、現代建築と伝統建築を融合する個性豊かな研究を実践。学部4年次までの学修内容をさらに発展させ、建築全般に関わる教育だけでなく、それぞれの学生の興味ある専門分野に対する教育と、他分野からの視点も得られる教育とを合わせながら、KYOBIの特長に沿った適正な教育プログラムを編成し実施します。建築設計や施工、文化財の保存修復など、建設業界やものづくりの世界で活躍するための専門的かつ実践的な内容、協調性やコミュニケーション力、表現力などを高める教育内容を適切に盛り込んでいます。また、課程修了者には、修士（建築）の学位が授与されます。



研究事例 1

京都の生活文化を受け継ぐ京町家などの建築の保全・継承について、調査研究を行うとともに、建物のリノベーション手法やまちづくりの進め方などについて実践的な研究を行います。



研究事例 2

少子高齢化の進行、地球環境問題の深刻化などを背景として、変化するライフスタイルに対応するとともに、地域の環境や文化の保全・継承・発展に配慮した住まい・まちのあり方を探求します。



研究事例 3

歴史的な環境に恵まれた京都の地で、伝統建築の実践的フィールドワークを通して高度な研究を行い、我が国の建築文化を深く理解するとともに、新たな建築文化の継承・創造のためのリテラシーを身につけます。



研究事例 4

海外、とりわけヨーロッパの伝統建築の改修・再生や近現代建築の調査を通して、建築や都市の考察を深めるとともに、現代の建築・都市整備に寄与するデザイン手法やリノベーション手法などを開発します。



研究事例 5

建築単体だけではなく、都市・地域の地理的・歴史的・社会的文脈を読み取りながら、現代に適合した新たな生活空間のあり方を考察し、建築や都市・地域のデザイン手法やマネジメント手法を創出する研究を行います。

授 業

建築だけでなく、美術工芸に関する内容も含んだ多彩な授業。

- 美術工芸特論
- インテリアデザイン特論
- 都市環境と芸術
- 工芸とデザイン
- 伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ
- 建築計画特論Ⅰ・Ⅱ
- 建築設計特論Ⅰ・Ⅱ
- 建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ
- 建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ

Pickup 授業 領域を横断しながら、既存の型にとらわれない設計指導を行います。



建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ

都市・地域の建築課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方の検討、機能・空間の構成法と形態化に取り組み、外部空間、地区、地域、都市空間へと拡張する課題解決のための高度な知識とデザイン力を養います。

資格・就職

在学中に一級建築士合格をめざせる対策講座を受講できます。

希望者を対象に、大学院1年次から一級建築士の受験対策講座を開講し、最短合格をめざすことができます。二級建築士合格者に対しては、その講座の授業料52万円が全額給付される奨学金制度を利用できる特典もあります。(返還不要)

2020年度 一級建築士(学科) **1名合格!** 大学院生で1期生から初の学科試験合格者誕生!

大手企業の研究開発職や設計職への就職にも大学院卒(修士)が有利です。さらに、一級建築士の資格を取得すれば、就職だけでなく、その後のキャリアアップにも優位に立てることが見込まれます。

院生や教員とのコミュニケーションが最大の財産になります。

大学院で学ぶ一番のメリットは、院生や教員の方とのコミュニケーションをもてる点です。自分の考えを表現することや、相手の考えを通して多角的な視点をもつことは、いずれ大きな財産になると考えています。また資格取得対策としては、内容を口頭で説明できるほどに理解すること。復習は覚えている間ではなく完全に忘れてから行うこと。本当に何もしない休憩で、脳が情報を整理する時間をもつこと。この3つを意識して行っています。



新開 章敬さん
大学院工芸学研究科
建築学専攻1年生
高砂南高校(兵庫県)
→京都建築大学校出身

大学院修了後、2年の実務経験を経て、
最短で一級建築士免許登録が可能!

京都美術工芸大学大学院
工芸学研究科(建築学専攻)

2年

在学中(最短1年次)に一級建築士合格
大学院で一級建築士の受験対策講座を開講し、
在学中の最短合格をサポートします。

1年

大学院に
進学

在学中(最短3年次)に二級建築士合格

二級建築士試験合格のために必要な学科の知識や製図スキルは一級建築士試験と大半が重なるため、いきなりの一級建築士挑戦に比べるとかなり有利です。

4年

3年

京都美術工芸大学

建築学部 建築学科

2年

一級建築士
最短合格

1年

↑ 修士課程 ↓
↑ 学士課程 ↓

2022年4月、京都で初、全国の美術・芸術大学で初となる「建築学部」が
京都美術工芸大学 (KYOBI) に誕生。新旧の建築技術と価値観が共存する歴史都市・京都で、
建築とアートを融合させた、新しい建築教育が始まります。

伝統と先端をオーバーラップさせる、
京都で初めての「建築学部」での学び。

3つの持続可能性を体現できる建築・まちづくり、京都はその最高のフィールド

KYOBIの建築学科には地域に根差した「伝統建築領域」とグローバルで先端的な「建築デザイン領域」および両者の「融合領域」があり、あえてコース制を導入せず、研究室に所属するまで全員が同じカリキュラムのもと学修します。それは「伝統」と「先端」を個別のものととらえるのではなく、両者をオーバーラップさせることで、現代に歴史の智慧を活かす、伝統に先端の方法論を取り入れるといった新境地が生まれることを期待するからです。

学びの場は多様な時代の建築が共存する京都です。価値観は時代とともに変化します。これほどまでにさまざまな時代の建築が同時に存在している京都の状況を、私は「異なる価値観の共存」と表現しています。そこには環境的持続可能性、社会的持続可能性、文化的持続可能性を含めた持続可能性のヒントが詰まっています。建築・まちづくりはそれらを体現できるアクションであり、京都はその最高のフィールドなのです。



建築学部長(就任予定)/
博士(工学)/一級建築士 高田 光雄 教授

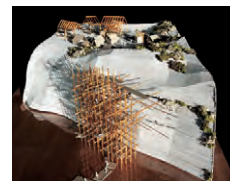
伝統に学ぶ

KYOBIのキャンパスは、京都の歴史・文化を色濃く残す地域にあり、学生の街・京都の中でも最高の立地条件を備えていると言えるでしょう。京都東山キャンパスから少し足を延ばせば、そこには寺社仏閣、京町家、路地、近現代建築など、多種多様な建築物が存在します。それらを直接見て触れて、さらには調査を通じて蓄積された歴史の中にある技術と智慧を学び、現代に生かせるような教育プログラムを用意しています。



先端を学ぶ

建築はさまざまな分野から成り立ち、工学的な面でも芸術的な面でも日々進歩しています。それは、より豊かな建築や都市をつくるためであったり、環境問題などの現代のさまざまな解決すべき問題に対応するためです。設計の技術的な面で言うなら、近年ではコンピュータのスキルは必須です。そのような最新の知識と技術をわかりやすく修得できるような学びを展開します。



伝統と先端を融合するKYOBIの学び・3つのキーワード

京都での学び

京都全体をキャンパスとする学びを展開。

大学から徒歩圏内にある神社での実測調査や京都の建築物、街並み、庭園などを現地調査してパンフレットを作成する演習など、京都という立地の特性を生かした授業が充実しています。
文化財・伝統建築から近現代建築まで、極めて幅広い年代の建築物が身近にある京都ならではの学びを展開し、京都の街全体をキャンパスととらえます。



BIM・CAD

最新のコンピュータスキルを早期に習得。

建設業界で広く求められているBIM・CADの学修を1年次後期からスタート。2年次からはBIM・CADに触れる演習授業を増やし、2年次の建築設計に活用できるレベルをめざします。
コンピュータスキルを早期に身につけることで、独自のデザインや調査結果を表現するためのツールとしてだけでなく、考えるためのツールとして使いこなせることをめざします。



異なる価値観の共存

制約の中から個々人の最良の創造を。

建築には、敷地、予算、施主の要望といった多くの制約の下で最良の提案をする資質が必要です。しかし、その提案は提案する人それぞれの価値観によって異なります。
例えば、椅子を小さな建築と見立てて制作する課題では、材料は1枚の木の板のみという条件とし、機能性だけでなく造形性も両立させるデザインを試みます。そこでは、ものをつくることだけでなく、他者の作品も共有することで、「異なる価値観の共存」を理解するきっかけをめざします。



関連施設紹介 ▶ Related facilities ◀



■ 天皇陛下(皇太子当時)が本施設をご視察になられました。

2007年5月7日、天皇陛下(皇太子当時)に、京都伝統工芸館をご視察賜りました。グループ校の「京都伝統工芸大学校」の学生が制作した作品やその他数々の工芸品をじっくりとご高覧いただき、制作実演を行う京都伝統工芸大学校生にはお声を賜るなど、学生たちの大きな励みとなりました。

■ 国賓であるブータン国王ご夫妻がご来館されました。

2011年、国賓として来日されたブータン国王ご夫妻。日本の伝統工芸をご視察されたいとのご要望のもと、本施設へご来館されました。グループ校の京都伝統工芸大学校の学生による制作実演などを熱心に見学され、その技術の高さに感嘆した国王より技術交流の申し出があり、交流がスタートしました。



■ アクセス便利な京都市街の中心地で、本校生を幅広くサポート。

京都伝統工芸館は、二本松学院の学生および卒業生のサポート施設。各種イベントの開催の他、本校卒業生を対象とした一級建築士資格をサポートする各種講座なども行われています。また、高校生を対象とした(一財)京都伝統工芸産業支援センターが主催する「美術工芸甲子園」の入賞作品の展示や、フランスやイタリアなどの海外交流展示を行う拠点にもなっています。

■ 日本三大祭「祇園祭」に毎年参加。

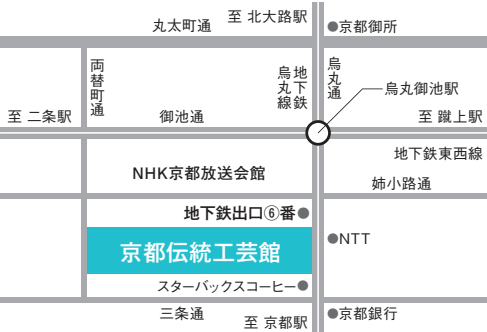
「京都伝統工芸館」が「鈴鹿山」の山鉾町にあることから、本学院生は山鉾のかき手として巡行に加わるという貴重な体験ができます。



フランス・パリの「エコール・ブール国立工芸学校」とグループ校「京都伝統工芸大学校」との合同作品展風景



ゼミによるスケッチ展。毎年、祇園祭の開催中にスケッチ展を開催しています。



ADDRESS
〒604-8172 京都市中京区烏丸通三条上ル
TEL.075-229-1010 休館日:火・水曜日

ACCESS
[電車]地下鉄「烏丸御池」駅下車⑥番出口すぐ
ホームページ
<http://www.dentoukougei.com/>

首都圏での入学相談や入試会場として幅広く活用できる拠点。

京都大学が主体となって京都府下のパートナー大学と連携を図り「大学のまち京都」で取り組まれている芸術や思想、哲学、文化などを関東圏にも発信し、京都への求心力を高めるために、JR東京駅近くの新丸の内ビルディング内に「京都アカデミアフォーラム」を設置しました。京都美術工芸大学も参加しており、グループ校の京都建築大学校・京都伝統工芸大学校も、入学相談のほか、入試や説明会などにも幅広く活用しています。



ADDRESS
〒100-6590 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階
(京都アカデミアフォーラム in 丸の内)

ACCESS
・JR「東京」駅 丸の内中央口より徒歩1分
・地下鉄丸ノ内線「東京」駅から直結
・地下鉄千代田線「二重橋前」駅 徒歩2分
・地下鉄東西線「大手町」駅 徒歩4分
・地下鉄三田線「大手町」駅から徒歩1分
・地下鉄半蔵門線「大手町」駅 徒歩8分



ADDRESS
〒534-0061 大阪府大阪市都島区友洲町1丁目5番102号(ヘルパークシティ内) TEL.06-7860-1020
開館時間:10:00~18:00(入館は17:30まで) 休館日:毎週水曜日、木曜日(現在休館中)

ACCESS
・地下鉄谷町線「都島」駅下車徒歩10分
・大阪市営バス(83系統)「高倉町2丁目」バス停下車徒歩3分

日本の美を、紡ぎ。つなぐ。

日本が世界に誇る伝統工芸品を中心に、日本ならではの美を表現する数々の工芸品・美術品、並びにその歴史的財産を未来に向けて昇華しようとする若手作家の作品などを広く公開することで、その魅力を多くの一般の方々にご理解いただくこと、またそれにより日本のものづくりを活性化し、新たな工芸・美術の可能性を育むことを目的としています。





建築・デザイン・アートの新拠点へ。
本学院が運営するギャラリーも。

京都伝統工芸館内の本学院が運営するギャラリー「K3nord(ケイスリーノルド)」。

建築・デザイン・アートに関する様々な情報・アイデアを発信する拠点となること、本学院はもちろん京都・関西の若き才能が互いに感性や創造力を刺激し合う場となることを目指しています。



DESIGN+ART SPACE K3nord

学院所有の学生寮で 初めての一人暮らしも安心です。

学校から1km圏内に安全性を第一に考えた学生寮とマンションを用意。
通常の賃貸をはるかに上回るレベルのセキュリティ機能と設備で、
ワンランク上の安全性、快適さ、清潔さを実現しています。
学校に近い学生寮・マンションに住むことで
実習時間を増やすことができ、より確かな技の習得につながります。

実習室は8時から19時半まで開放。寮生活をする中で実習時間が多く確保できます。



Point 01

明るく清潔感のある マンションタイプの学生寮です。

本学院学生寮の多くはワンルームマンションタイプ。
バス・トイレ・キッチンも完備された室内は、明るく快適。
学校にも近く、通学もラクラクです。



住んでいるのは 本学院生だけだから安心。 セキュリティも万全です。

- 火を使わないオール電化
- 女性専用マンションも多数ご用意
- 最新の設備&セキュリティ
- 行き届いた管理



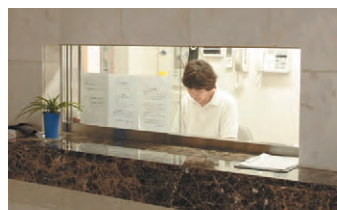
オートロックシステム



防犯カメラ



セコムセキュリティシステム



管理人が巡回

敷金・礼金0円。電化製品も完備。

Point 03

敷金・礼金 **0円**
保証金 **15万円**

きれいに使えば
保証金全額返還！

家賃のバリエーションも豊富

■ 家賃(月額)ワンルームタイプ

16,000円
～ **44,000円**

設備
充実

電化製品完備だから、初期費用がかからずおトク！



ベッド/カーテン



エアコン



下駄箱・収納



液晶テレビ



システムキッチン/洗面化粧台



冷蔵庫



洗濯機

通学らくらくで、実習時間たっぷり！

二本松学院学生寮は、徒歩圏内に13棟600室。

留学・研修や視察などで多くの国々からの訪問客を迎える本学院では海外交流の受け入れ施設としての役割も担っています。これまでにフランスのエコール・ブール国立工芸学校、エコール・カモンド、アメリカのミシガン大学、ブータンからの留学生を受け入れています。



二本松学院研修センター



二本松学院駅前研修寮



二本松学院駅前第2研修寮



二本松学院米町研修寮(女子寮)



二本松学院駅前第5研修寮(男子寮)



二本松学院駅前第3研修寮(女子寮)

スクールバス通学

スクールバスのルートは右記の3つで、集合場所は全5地点。授業のある日は毎日運行。通学にかかる時間、そして費用をおトクにするスクールバスです。



遠方からの学生も比較的
時間に余裕を持って
登校できます。

京都縦貫自動車道「沓掛一大山崎」ルート 開通で通学時間が劇的に短縮！

授業開始9:45だから、スクールバスとの組み合わせで
ラクラク通学圏内に！



電車通学

遠方からでも通いやすいように、
通学電車に合わせた始業時間としています。

JR「京都」駅より快速で最短36分
JR「嵯峨嵐山」駅からは23分

らくらく通学9:45始業

朝・夕の通学時間帯は、毎時3～5本運行

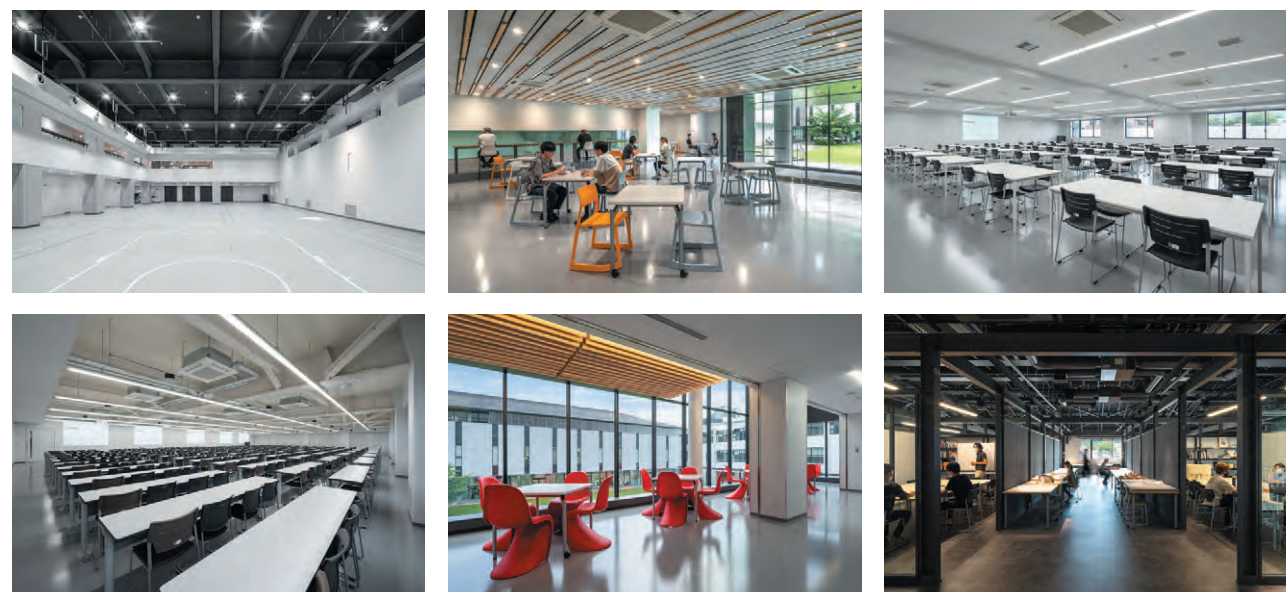


本校最寄駅JR「園部」駅
西口(キャンパス正面から
みた風景)下車すぐ

関西私鉄沿線からも、スクールバス利用でラクラク通学が可能に。
スクールバス+電車の組み合わせで、朝の通学がとっても快適になりました！



01 京都東山キャンパスに新校舎が誕生



02 第4次校地拡張整備工事について



これまで3次に亘っておこなってきた校地拡張整備は、主体である学生のために、周辺環境との調和と良好な景観形成を基本理念とし進めてきました。

第4次校地拡張整備工事については、第3次校地拡張整備の完了地の一部（11号館法面）が2017年10月22日の台風21号による豪雨で崩落し、その修復について技術的・修景的に検討するとともに、隣接地の土地所有者の理解と協力を必要とすることから協議を併行してすすめてきたところ、2019年1月に地権者の協力を得ることができ、隣接地11筆計4,708.8㎡（1,424坪）（公簿面積）を取得することができました。これを受けて、学院として学生の福利厚生施設や校地拡張整備予定地として30周年記念事業の一環として整備することとし、関係機関（南丹市、京都府）と協議を重ね2019年11月に開発許可を取得し2020年6月に工事着手、2021年3月に完成しました。

03 12号館リニューアルプロジェクト



JR園部駅前の園部キャンパス12号館の活用を図るためリニューアルプロジェクトとして「KASDデザインラボ (KASD DESIGN LABO)」(仮称)として改修することになりました。この施設は、二級建築士はもとより、一級建築士やインテリアに関わる各種資格取得に向けての集約した施設とし、学修環境の拡充を図りゼミ室等を整備するものです。



04 ロゴマークデザイン決定
二本松学院在学生を対象に募集を行っていましたが
ロゴマークデザインが決定しました。

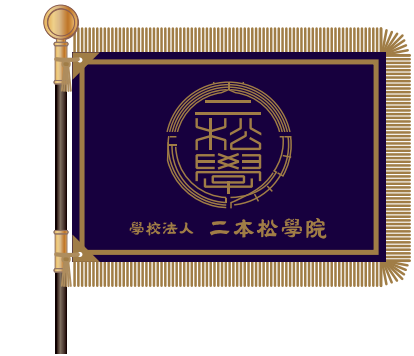


ロゴ制作:美術工芸学科4年生 濱井 春海
二本松学院という名前から、2つで対に見えるロゴにしました。グラデーションを使用し、今までとこれからの未来を表現しています。また、光が射している丸みを帯びたひし形で「30」と二本松学院の明るい未来を現しました。

06 紙のカタチ展 ― 平面から立体の世界へ ―

日本の伝統文化の一つである“折りガミ (折り紙)”に光を当て、その技の可能性を探ろうとするものです。江戸時代に建築を説明するためにはじめられた“起こし絵”、ページをめくると素敵な世界が広がる“飛び出し絵本”、その発想を水平展開して日本で始められた“折り紙建築”、さらにはフランスの人間国宝にあたる作家のシルバン・ル・グエンによる創作扇子などを展示します。1枚の紙(ペーパー)が様々な姿に変わる不思議さを味わっていただければと思います。今回の展覧会は二本松学院30周年記念及びニューブランシュ2021の共催イベントです。

05 二本松学院旗
30周年を記念して学院旗を作制しました。



伝統的な京の紫を表すやや赤みの強い「京紫」の生地に「二本松学院」を囲むように上部には京都美術工芸大学の「美」、右には京都建築大学の「建」、そして左側には京都伝統工芸大学の「伝」の文字を図案化しています。

紙のカタチ展 ― 平面から立体の世界へ ―
前期 2021年10月1日(金)～2021年10月25日(月)
京都伝統工芸館
後期 2021年11月5日(金)～2021年11月30日(火)
京都美術工芸大学 鴨川七条ギャラリー
休館日がありますので京都伝統工芸館・京都美術工芸大学のホームページでご確認ください。
入場料:無料 主催:学校法人二本松学院
展示概要(予定) ・折り紙建築(80点)はがき大～A2二つ折り
・シルバン・ル・グエンによる創作扇子5点
・日本伝統の起こし絵
・飛び出し絵本3～5点

新谷秀一理事長が
旭日中綬章を受章いたしました

2021年春の受勲綬章者の発表があり、本学院の理事長新谷秀一が旭日中綬章を受章いたしました。新谷秀一は、「即戦力として社会に通用する人材の育成」を理念にかかげ、1991年、京都府南丹市に京都国際建築技術専門学校(現.京都建築大学校)を開校。在学中の二級建築士国家資格取得システムや放送大学との連携による専門学校+大学のWスクールシステムを確立するなど、即戦力となる人材を多数輩出してきました。

1995年には、国・京都府・京都の伝統工芸産業界の支援により、伝統工芸を体系的な教育システムで学べる日本で唯一の学校、京都伝統工芸専門校(現.京都伝統工芸大学校)を開校。技術の継承にとどまらず、海外との技術交流や作品の展覧などを積極的に行い、伝統工芸産業界に貢献してきました。

そして、これまで培ってきた実績と経験を基に、2012年に京都美術工芸大学、2020年に京都美術工芸大学大学院を開学。建築と美術工芸の融合教育により、日本の伝統美に新しい価値を創造し、世界へ発信できる人材を育成しています。

これまでの約30年間、一貫した理念を実践し続け、建築・美術工芸の業界へ多くの人材を送り出してきた功績が称えられての受章となりました。

新谷秀一 プロフィール
1940年 (昭和15年)1月14日 福井県敦賀市に生まれる
1958年 (昭和33年)大阪府立城東工業高等学校卒業
1960年 日興証券(株)入社
1972年 北摂ミサワホーム(株)
(ミサワホームディーラー)設立 社長就任
1990年 学校法人 二本松学院 理事長就任
1991年 京都建築大学校開校 理事長就任
1995年 京都伝統工芸産業界支援センター
(経済産業省 京都府等第三セクター)
京都伝統工芸大学校開校 理事長就任
2006年 社会福祉法人 京都太陽の園 理事就任
2007年 公益財団法人 鈴鹿山維持会 理事就任
2012年 京都美術工芸大学開学 理事長就任
2016年 公益財団法人 霊山顕彰会 理事就任

